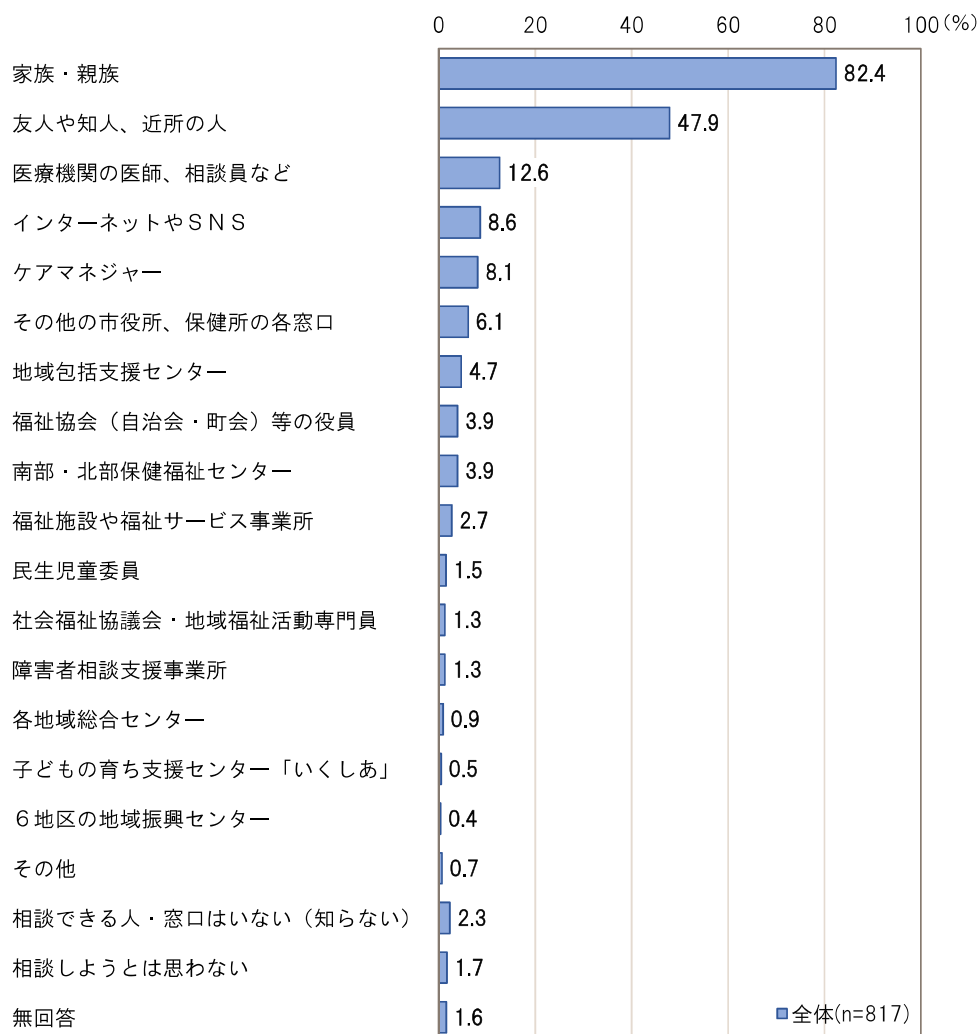


(2) 困りごとがあった時に相談できる人（窓口）

- ・困りごとがあった時に相談できる人（窓口）では、「家族・親族」が82.4%と8割以上を占めて最も多く、次いで「友人や知人、近所の人」(47.9%)、「医療機関の医師、相談員など」(12.6%)、「インターネットやSNS」(8.6%)の順となっており、身近な人への相談が多くなっています。



- 性別にみると、女性では「友人や知人、近所の人」や「医療機関の医師、相談員など」で男性に比べて多く、男性では「相談できる人・窓口はない（知らない）」が女性に比べてやや多くなっています。
- 年代別にみると、すべての年代で「家族・親族」が最も多くなっています。また、概ね年代が下がるにつれて「インターネットやSNS」、年代が上がるにつれて「医療機関の医師、相談員など」や「ケアマネジャー」の割合が多くなる傾向がみられます。

(%)

	回答者数（人）	家族・親族	友人や知人、近所の人	医療機関の医師、相談員など	S インターネットやSNS	ケアマネジャー	その他の市役所、保健所の各窓口	地域包括支援センター	福祉協会（自治会・町会）等の役員	南部・北部保健福祉センター	福祉施設や福祉サービス事業所
性別											
男性	360	80.8	42.2	9.7	8.6	6.9	5.8	5.0	5.0	3.6	2.8
女性	454	83.7	52.4	15.0	8.6	9.0	6.4	4.4	3.1	4.2	2.6
年代別											
20～29歳	40	89.1	78.3	2.2	19.6	-	2.2	2.2	-	4.3	2.2
30～39歳	82	93.4	64.8	8.8	17.6	2.2	4.4	-	-	5.5	2.2
40～49歳	106	81.6	59.2	8.0	15.2	2.4	3.2	3.2	0.8	6.4	1.6
50～59歳	94	82.1	45.5	13.8	11.4	7.3	6.5	3.3	2.4	2.4	0.8
60～69歳	95	81.7	45.8	13.7	6.9	3.1	6.9	4.6	6.9	3.1	2.3
70～79歳	99	79.9	40.2	11.2	1.2	8.3	8.9	6.5	5.3	3.6	2.4
80歳以上	70	76.7	27.9	23.3	0.8	26.4	7.0	9.3	7.8	3.1	7.0

(つづき)	回答者数（人）	民生児童委員	社会福祉協議会・地域福祉活動専門員	障害者相談支援事業所	各地域総合センター	子どもの育ち支援センター「いくしあ」	6地区の地域振興センター	その他	相談できる人・窓口はない（知らない）	相談しようとは思わない	無回答
性別											
男性	360	2.5	2.2	0.6	1.1	0.3	0.8	0.3	3.1	1.9	1.4
女性	454	0.7	0.7	2.0	0.7	0.7	0.0	1.1	1.8	1.3	1.8
年代別											
20～29歳	40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30～39歳	82	1.1	-	3.3	1.1	1.1	-	1.1	1.1	1.1	-
40～49歳	106	-	0.8	1.6	-	1.6	-	0.8	2.4	1.6	-
50～59歳	94	0.8	0.8	1.6	-	-	-	1.6	6.5	2.4	0.8
60～69歳	95	1.5	1.5	0.8	1.5	-	1.5	-	1.5	0.8	0.8
70～79歳	99	4.1	2.4	-	0.6	-	0.6	-	2.4	1.2	1.8
80歳以上	70	0.8	2.3	2.3	2.3	0.8	-	1.6	0.8	3.9	6.2

※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

- ・家族構成別にみると、三世帯世帯では「医療機関の医師、相談員など」、ひとり親と子世帯では「インターネットやSNS」や「南部・北部保健福祉センター」、「障害者相談支援事業所」などで、その他の世帯に比べてやや多くなっています。
- ・地域との交流状況別にみると、交流のある人で「医療機関の医師、相談員など」や「地域包括支援センター」、「福祉協会（自治会・町会）等の役員」などが、その他と比べて多くなっています。

(%)

	回答者数（人）	家族・親族	友人や知人、近所の人	医療機関の医師、相談員など	インターネットやSNS	ケアマネジャー	その他の市役所、保健所の各窓口	地域包括支援センター	福祉協会（自治会・町会）等の役員	南部・北部保健福祉センター	福祉施設や福祉サービス事業所
家族構成別											
ひとり暮らし	210	71.4	45.7	12.9	6.2	10.0	4.8	7.6	4.3	3.8	3.3
夫婦のみ	223	84.8	46.6	12.6	6.7	6.3	5.8	3.1	5.4	3.6	1.3
親子	277	89.2	48.7	12.6	10.8	9.0	6.1	4.7	2.5	4.3	2.2
三世帯	30	90.0	43.3	16.7	3.3	13.3	13.3	-	3.3	-	6.7
ひとり親と子	50	76.0	56.0	8.0	14.0	-	12.0	-	4.0	8.0	2.0
その他	20	75.0	50.0	20.0	15.0	10.0	-	10.0	5.0	-	15.0
地域との交流状況別											
ある	348	85.3	57.8	16.7	6.9	8.6	8.3	7.8	7.2	4.3	3.4
あいさつ程度	255	82.0	40.8	10.2	9.4	9.0	5.9	2.7	2.0	3.9	1.2
ない	178	80.9	43.8	8.4	12.4	5.6	2.2	2.2	0.6	3.9	3.4

(つづき)	回答者数（人）	民生児童委員	社会福祉協議会・地域福祉活動専門員	障害者相談支援事業所	各地域総合センター	子どもの育ち支援センター「いくしあ」	6地区の地域振興センター	その他	相談できる人・窓口はない（知らない）	相談しようとは思わない	無回答
家族構成別											
ひとり暮らし	210	2.4	2.4	-	1.0	0.5	0.5	1.4	3.3	2.9	1.0
夫婦のみ	223	2.2	1.3	0.4	0.4	-	0.4	0.4	1.8	0.9	2.2
親子	277	0.7	1.1	2.2	1.1	0.7	0.4	0.7	2.2	1.8	1.4
三世帯	30	-	-	3.3	-	-	-	-	-	-	3.3
ひとり親と子	50	-	-	6.0	2.0	2.0	-	-	4.0	2.0	2.0
その他	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
地域との交流状況別											
ある	348	2.6	1.7	1.1	0.9	0.6	0.3	0.3	0.6	0.3	1.7
あいさつ程度	255	1.2	1.2	2.4	0.8	0.8	0.4	1.2	4.3	3.1	1.6
ない	178	-	0.6	0.6	0.6	-	0.6	0.6	2.2	1.1	0.6

※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

- 地区別にみると、大庄地区で「地域包括支援センター」がその他の地区に比べてやや多くなっています。
- 現在の住居での居住年数別にみると、概ね居住年数が長くなるほど「社会福祉協議会・地域福祉活動専門員」や「子どもの育ち支援センター「いくしあ」」が多くなる傾向がみられます。

(%)

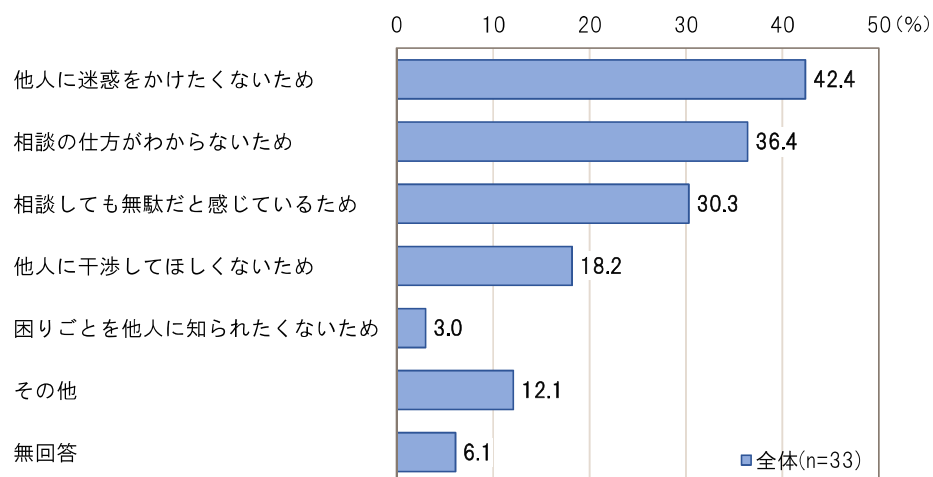
	回答者数(人)	家族・親族	友人や知人、近所の人	医療機関の医師、相談員など	SNS	ケアマネジャー	その他の市役所、保健所の各窓口	地域包括支援センター	福祉協会(自治会・町会)等の役員	福祉センター	南部・北部保健福祉センター	福祉施設や福祉サービス事業所
地区別												
中央地区	100	74.0	42.0	13.0	7.0	7.0	7.0	4.0	6.0	8.0	7.0	
小田地区	121	82.6	47.9	13.2	6.6	11.6	4.1	0.8	4.1	3.3	4.1	
大庄地区	68	82.4	47.1	8.8	5.9	10.3	5.9	10.3	8.8	7.4	2.9	
立花地区	165	86.7	50.3	13.3	10.3	7.9	8.5	4.8	4.8	3.0	1.8	
武庫地区	172	87.2	48.8	12.8	9.3	5.8	5.8	5.2	1.7	3.5	1.2	
園田地区	165	80.6	44.2	12.7	10.9	9.1	5.5	4.8	2.4	2.4	1.8	
現在の住居での居住年数別												
1年未満	44	84.1	61.4	-	-	-	-	-	-	-	-	
1年以上5年未満	146	80.8	51.4	2.1	0.7	7.5	-	-	-	6.2	0.7	
5年以上10年未満	110	84.5	53.6	1.8	-	2.7	0.9	-	1.8	1.8	0.9	
10年以上30年未満	281	80.1	45.2	4.3	2.1	3.6	0.4	1.1	1.1	6.0	1.4	
30年以上	232	84.9	43.5	6.5	2.2	3.4	0.9	-	0.9	9.5	2.2	
(つづき)	回答者数(人)	民生児童委員	社会福祉協議会・地域福祉活動専門員	障害者相談支援事業所	各地域総合センター	子どもの育ち支援センター「いくしあ」	6地区の地域振興センター	その他	相談できる人・窓口はない(知らない)	相談しようとは思わない	無回答	
地区別												
中央地区	100	2.0	3.0	3.0	1.0	-	-	-	5.0	3.0	2.0	
小田地区	121	1.7	-	0.8	1.7	1.7	-	1.7	1.7	1.7	1.7	
大庄地区	68	1.5	2.9	-	-	-	-	1.5	4.4	1.5	1.5	
立花地区	165	1.8	2.4	0.6	1.2	-	0.6	0.6	-	1.2	1.8	
武庫地区	172	1.2	-	1.7	0.6	0.6	-	0.6	2.3	-	-	
園田地区	165	1.2	1.2	1.8	0.6	0.6	1.2	0.6	2.4	3.0	2.4	
現在の住居での居住年数別												
1年未満	44	-	2.3	-	6.8	6.8	11.4	2.3	-	2.3	-	
1年以上5年未満	146	2.1	7.5	2.1	4.8	11.6	15.1	1.4	1.4	2.7	0.7	
5年以上10年未満	110	3.6	6.4	1.8	0.9	13.6	9.1	-	0.9	1.8	0.9	
10年以上30年未満	281	5.0	8.2	1.4	1.4	10.0	10.0	0.4	3.9	1.1	1.4	
30年以上	232	7.3	10.3	0.9	3.0	17.2	2.2	0.9	2.2	1.3	3.0	

※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

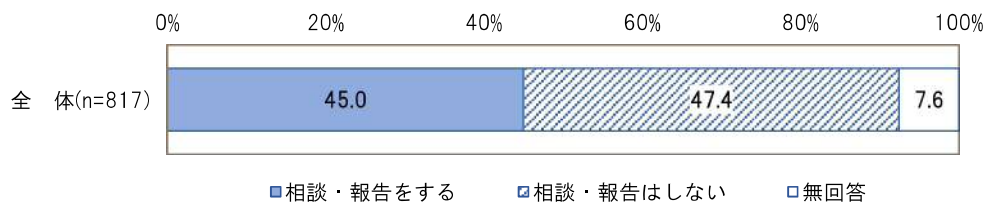
(3) 相談できる人がいない、相談しようと思わない理由

※(2)で「相談できる人・窓口はいない(知らない)」または「相談しようと思わない」と回答した人のみ
・困りごとがあった時にも、相談できる人がいない、相談しようと思わない理由では、「他人に迷惑をかけたくないため」が42.4%と4割以上を占めて最も多く、次いで「相談の仕方がわからないため」(36.4%)、「相談しても無駄だと感じているため」(30.3%)の順となっています。



(4) 暮らしの困りごとを抱えている人がいた場合の市や支援機関の窓口への相談や通報

- ・暮らしの困りごとを抱えている人がいた場合の市や支援機関の窓口への相談や通報では、「相談・報告をする」が45.0%、「相談・報告はしない」が47.4%と同程度となっています。
- ・年代別にみると、「相談・報告をする」の割合では60～69歳が53.4%と半数を超えて最も多く、ついで、70～79歳(50.9%)、50～59歳(44.7%)、30～39歳(44.0%)の順となっています。
- ・また、20～29歳では「相談・報告はしない」が73.9%と7割以上を占め、その他の年代に比べて多くなっています。
- ・現在の住居での居住年数別にみると、概ね、居住年数が短くなるほど「相談・報告はしない」が多くなる傾向がみられます。



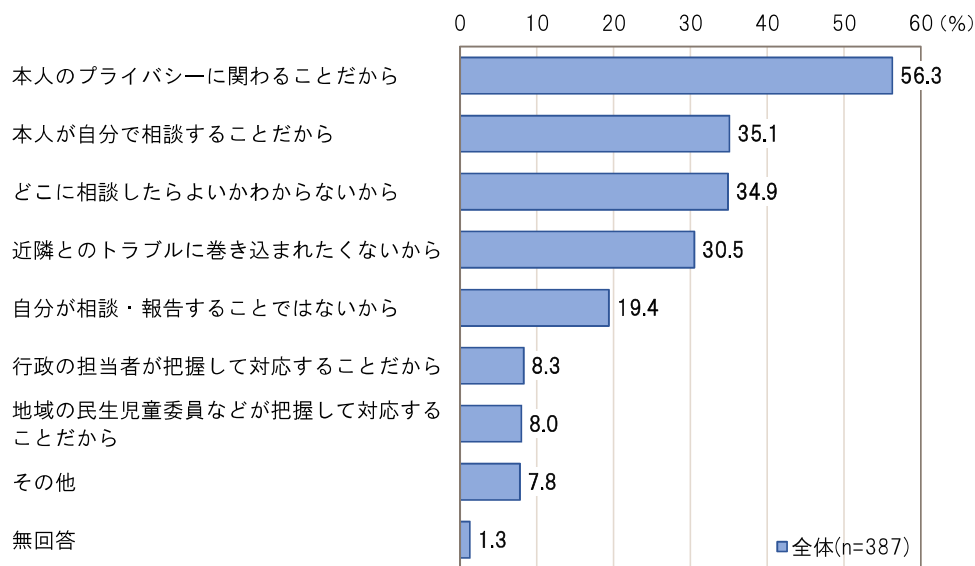
	回答者数 (人)	相談・ 報告をする	相談・ 報告はしない	無回答
(%)				
年代別				
20～29歳	46	26.1	73.9	-
30～39歳	91	44.0	54.9	1.1
40～49歳	125	41.6	56.0	2.4
50～59歳	123	44.7	52.0	3.3
60～69歳	131	53.4	38.9	7.6
70～79歳	169	50.9	36.7	12.4
80歳以上	129	38.8	43.4	17.8
現在の住居での居住年数別				
1年未満	44	43.2	56.8	0.0
1年以上5年未満	146	42.5	52.1	5.5
5年以上10年未満	110	45.5	47.3	7.3
10年以上30年未満	281	44.5	48.8	6.8
30年以上	232	47.8	40.9	11.2

※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。
 ※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」としている。

(5) 暮らしの困りごとを抱えている人がいた場合に相談・報告をしない理由

※(4)で「相談・報告はしない」と回答した人のみ

- ・暮らしの困りごとを抱えている人がいた場合に相談・報告をしない理由では、「本人のプライバシーに関わることだから」が56.3%と半数以上を占めて最も多く、次いで「本人が自分で相談することだから」(35.1%)、「どこに相談したらよいかわからないから」(34.9%)、「近隣とのトラブルに巻き込まれたくないから」(30.5%)の順となっています。
- ・性別にみると、男性では「本人が自分で相談することだから」、女性では「どこに相談したらよいかわからないから」がそれぞれ多くなっています。
- ・年代別にみると、20～29歳では「どこに相談したらよいかわからないから」、80歳以上では「本人が自分で相談することだから」が最も多くなっています。



(%)

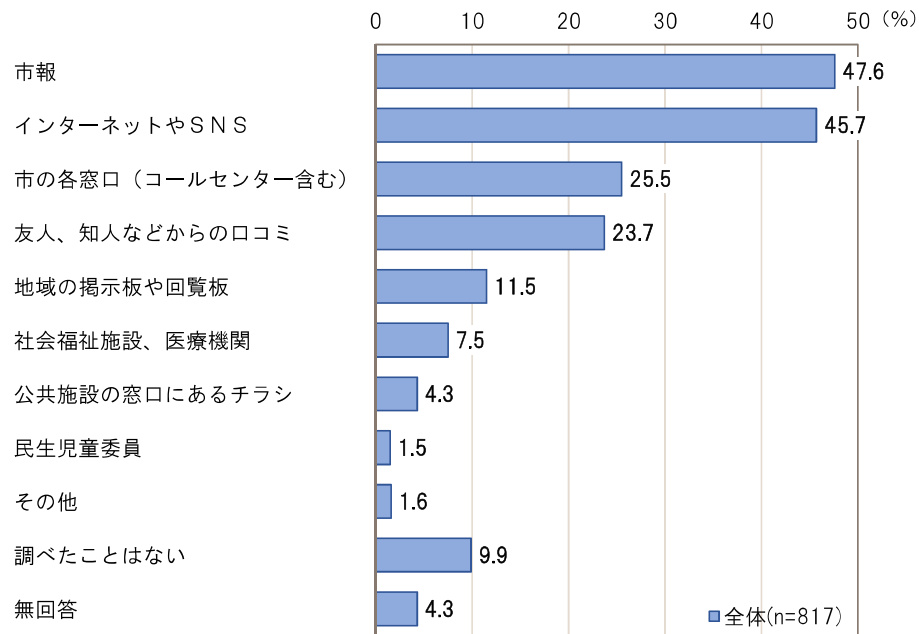
	回答者数(人)	本人のプライバシーに関わることだから	本人が自分で相談することだから	どこに相談したらよいかわからないから	近隣とのトラブルに巻き込まれたくないから	自分が相談・報告することではないから	行政の担当者が把握して対応することだから	地域の民生児童委員などが把握して対応することだから	その他	無回答
性別										
男性	174	54.6	42.5	30.5	31.0	21.8	10.9	6.3	4.6	1.1
女性	212	58.0	29.2	38.7	30.2	17.5	5.7	9.4	10.4	1.4
年代別										
20～29歳	34	41.2	35.3	44.1	32.4	14.7	11.8	11.8	8.8	-
30～39歳	50	58.0	32.0	32.0	32.0	16.0	6.0	2.0	14.0	-
40～49歳	70	64.3	20.0	48.6	35.7	17.1	8.6	5.7	7.1	1.4
50～59歳	64	57.8	28.1	51.6	39.1	25.0	6.3	9.4	7.8	-
60～69歳	51	60.8	37.3	29.4	29.4	19.6	2.0	11.8	2.0	2.0
70～79歳	62	58.1	46.8	24.2	22.6	17.7	14.5	3.2	6.5	3.2
80歳以上	56	46.4	50.0	12.5	21.4	23.2	8.9	14.3	8.9	1.8

※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(6) 困りごとに関する制度を調べる時の情報の入手先

- ・困りごとに関する制度を調べる時の情報の入手先では、「市報」が47.6%、次いで「インターネットやSNS」が45.7%とともに4割を超えて多くなっています。次いで、「市の各窓口（コールセンター含む）」（25.5%）、「友人、知人などからの口コミ」（23.7%）の順となっています。
- ・性別にみると、女性では男性に比べて「友人、知人などからの口コミ」が多くなっています。
- ・年代別にみると、20～59歳では「インターネットやSNS」、60歳以上では「市報」が最も多くなっています。また、概ね年代が上がるにつれて「地域の掲示板や回覧板」や「社会福祉施設、医療機関」の割合が多くなる傾向がみられます。



(%)

	回答者数 (人)	市報	S インターネットやS N	市の各窓口 (コール センター含む)	友 人、 知 人 な ど か ら の 口 コ ミ	地 域 の 掲 示 板 や 回 覧 板	関 連 社 会 福 祉 施 設 、 医 療 機 関	公 共 施 設 の 窓 口 に あ る チ ラ シ	民 生 児 童 委 員	そ の 他	調 べ た こ と は な い	無 回 答
性別												
男性	360	45.6	46.4	25.3	17.8	11.9	8.6	4.4	1.7	1.1	11.9	2.5
女性	454	49.6	45.2	25.8	28.6	11.2	6.6	4.2	1.3	2.0	8.4	5.3
年代別												
20～29歳	46	21.7	78.3	13.0	15.2	2.2	6.5	6.5	-	-	15.2	-
30～39歳	91	39.6	81.3	23.1	23.1	5.5	3.3	5.5	-	-	4.4	-
40～49歳	125	37.6	75.2	16.0	24.0	8.0	2.4	5.6	0.8	1.6	10.4	-
50～59歳	123	43.1	61.8	27.6	20.3	6.5	2.4	1.6	-	3.3	5.7	3.3
60～69歳	131	62.6	41.2	33.6	22.9	10.7	9.2	5.3	2.3	1.5	5.3	2.3
70～79歳	169	56.8	17.8	29.6	31.4	17.8	10.7	4.1	3.6	0.6	13.0	7.1
80歳以上	129	50.4	5.4	24.8	21.7	20.2	14.7	3.1	1.6	3.1	16.3	12.4

※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

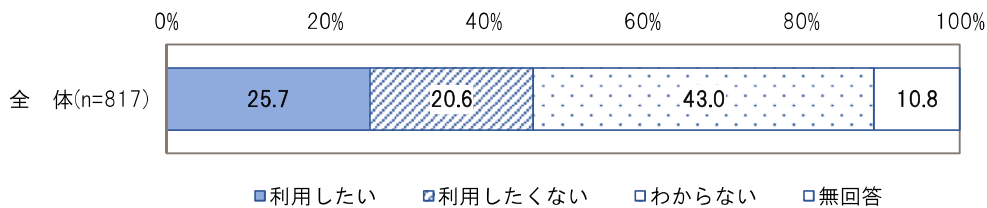
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

5. 権利擁護に関する制度について

(1) 成年後見制度の利用意向

① 自分自身の場合

- ・自分自身の場合の成年後見制度の利用意向では、「利用したい」が 25.7%、「利用したくない」が 20.6%と、利用したい人がやや多くなっています。
- ・年代別にみると、「利用したい」の割合では 30～39 歳で 36.3%と最も多くなっています。
- ・家族構成別にみると、「利用したい」の割合ではひとり親と子世帯で 36.0%と最も多くなっています。
- ・職業別にみると、自営業で「利用したくない」が3割を超えてやや多くなっています。



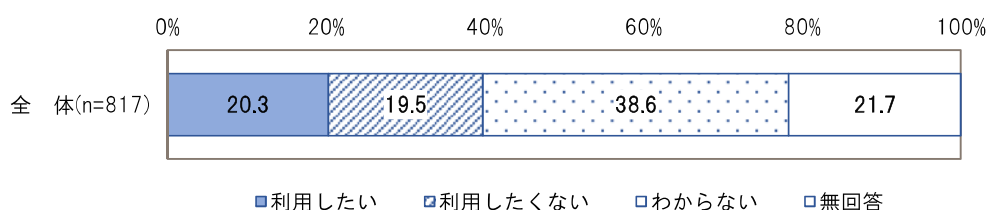
	回答者数 (人)	利用したい (%)	利用したくない (%)	わからない (%)	無回答 (%)
年代別					
20～29歳	46	28.3	8.7	60.9	2.2
30～39歳	91	36.3	12.1	51.6	-
40～49歳	125	25.6	14.4	54.4	5.6
50～59歳	123	30.9	23.6	41.5	4.1
60～69歳	131	30.5	24.4	37.4	7.6
70～79歳	169	19.5	24.3	37.3	18.9
80歳以上	129	16.3	25.6	32.6	25.6
家族構成別					
ひとり暮らし	210	26.2	21.9	39.5	12.4
夫婦のみ	223	25.1	21.5	45.3	8.1
親子	277	24.9	19.9	45.1	10.1
三世帯	30	23.3	16.7	46.7	13.3
ひとり親と子	50	36.0	16.0	38.0	10.0
職業別					
勤め人 (常勤)	286	32.2	15.0	49.3	3.5
勤め人 (非常勤)	96	25.0	15.6	49.0	10.4
自営業	50	24.0	32.0	28.0	16.0
学生	3	66.7	-	33.3	-
家事専業	62	22.6	27.4	46.8	3.2
年金生活者	274	20.1	25.5	36.1	18.2

※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

②自分の家族や親族の場合

- 自分の家族や親族の場合の成年後見制度の利用意向では、「利用したい」が 20.3%、「利用したくない」が 19.5%と同程度となっており、①の自分自身の場合と比べると利用したい人はやや少なくなっています。
- 年代別にみると、「利用したい」の割合では 20～29 歳で 30.4%と最も多くなっており、この年代でのみ、自分自身の場合と比べて家族や親族の場合に利用したい人が多くなっています。
- 家族構成別にみると、「利用したい」の割合ではひとり親と子世帯で 24.0%と最も多くなっています。
- 職業別にみると、自営業で「利用したくない」が3割を超えてやや多くなっています。



	回答者数 (人)	利用したい (%)	利用したくない (%)	わからない (%)	無回答 (%)
年代別					
20～29歳	46	30.4	8.7	58.7	2.2
30～39歳	91	28.6	17.6	52.7	1.1
40～49歳	125	24.0	24.0	41.6	10.4
50～59歳	123	21.1	26.8	40.7	11.4
60～69歳	131	23.7	26.0	35.9	14.5
70～79歳	169	14.8	13.6	30.2	41.4
80歳以上	129	10.9	14.7	28.7	45.7
家族構成別					
ひとり暮らし	210	17.1	15.7	37.1	30.0
夫婦のみ	223	21.5	19.3	41.3	17.9
親子	277	20.9	21.7	39.0	18.4
三世帯	30	20.0	23.3	33.3	23.3
ひとり親と子	50	24.0	24.0	38.0	14.0
職業別					
勤め人 (常勤)	286	26.6	19.9	46.5	7.0
勤め人 (非常勤)	96	18.8	20.8	41.7	18.8
自営業	50	18.0	34.0	24.0	24.0
学生	3	33.3	33.3	33.3	-
家事専業	62	21.0	21.0	40.3	17.7
年金生活者	274	14.6	16.4	32.8	36.1

※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

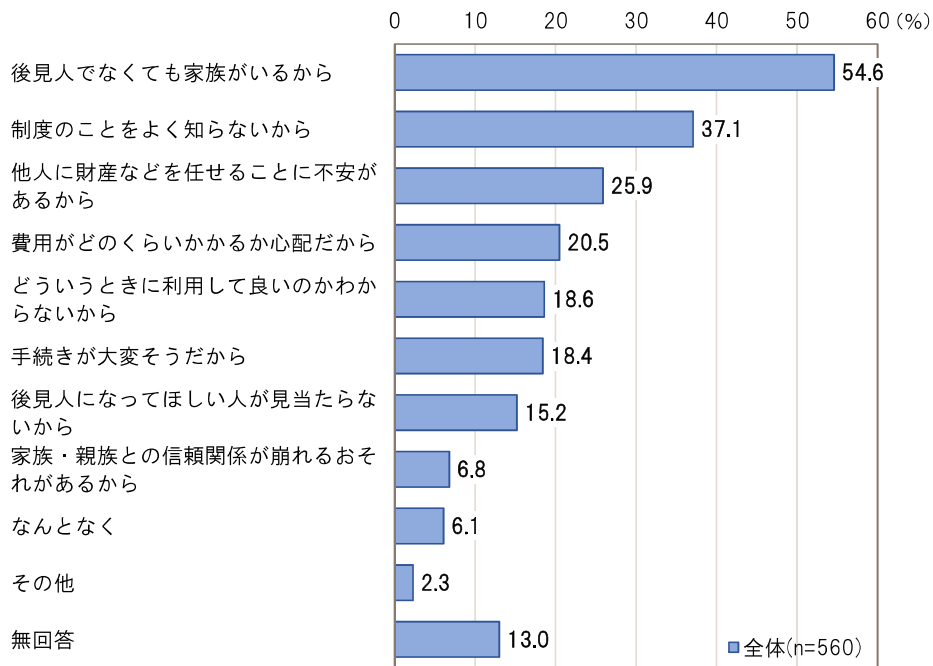
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(2) 成年後見制度を利用したいと思わない理由

① 自分自身の場合

※ (1) ①で「利用したくない」または「わからない」と回答した人のみ

- 自分自身の場合に成年後見制度を利用したいと思わない理由では、「後見人でなくても家族がいるから」が 54.6%と半数以上を占めて最も多く、次いで「制度のことをよく知らないから」(37.1%)、「他人に財産などを任せることに不安があるから」(25.9%) の順となっています。
- 年代別にみると、20～49 歳では「制度のことをよく知らないから」、50 歳以上では「後見人でなくても家族がいるから」が最も多くなっています。



(%)

	回答者数 (人)	後見人でなくても家族がいるから	制度のことをよく知らないから	他人に財産などを任せることに不安があるから	費用がどのくらいかかるか心配だから	どういうときに利用して良いかわからないから	手続きが大変そうだから	後見人になってほしい人が見当たらないから	家族・親族との信頼関係が崩れるおそれがあるから	なんとなく	その他	無回答
年代別												
20～29歳	34	38.2	70.6	29.4	35.3	20.6	32.4	5.9	2.9	5.9	2.9	5.9
30～39歳	65	47.7	55.4	44.6	27.7	23.1	18.5	16.9	4.6	7.7	-	12.3
40～49歳	95	38.9	44.2	27.4	26.3	26.3	22.1	20.0	5.3	5.3	3.2	17.9
50～59歳	89	51.7	32.6	32.6	32.6	18.0	22.5	21.3	9.0	2.2	5.6	15.7
60～69歳	85	65.9	31.8	24.7	14.1	11.8	16.5	16.5	8.2	1.2	1.2	9.4
70～79歳	109	62.4	23.9	15.6	11.0	14.7	12.8	9.2	8.3	8.3	1.8	10.1
80歳以上	80	66.3	28.8	16.3	8.8	18.8	13.8	12.5	6.3	12.5	1.3	16.3

※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

- 家族構成別にみると、親子世帯、ひとり親と子世帯では「他人に財産などを任せることに不安があるから」や「手続きが大変そうだから」が、その他の世帯に比べてやや多くなっています。
- 職業別にみると、自営業では「後見人でなくても家族がいるから」が7割を超えて多くなっています。

(%)

	回答者数(人)	後見人でなくても家族がいるから	制度のことをよく知らないから	他人に財産などを任せることに不安があるから	費用がどのくらいかかるか心配だから	どういうときに利用して良いかわからないから	手続きが大変そうだから	後見人になってほしい人が見当たらないから	家族・親族との信頼関係が崩れるおそれがあるから	なんとなく	その他	無回答
家族構成別												
ひとり暮らし	143	41.3	39.2	20.3	17.5	16.8	15.4	14.7	4.9	9.8	4.9	18.2
夫婦のみ	154	57.1	34.4	21.4	14.9	18.8	16.2	15.6	6.5	7.1	0.6	10.4
親子	196	59.7	35.7	34.2	26.0	19.9	23.0	15.3	8.2	3.1	2.6	11.7
三世代	20	70.0	40.0	15.0	25.0	20.0	5.0	5.0	5.0	-	-	5.0
ひとり親と子	32	56.3	37.5	34.4	31.3	12.5	18.8	21.9	9.4	9.4	-	21.9
職業別												
勤め人(常勤)	205	46.8	48.3	30.7	22.9	19.5	18.5	20.5	6.8	4.4	2.0	13.2
勤め人(非常勤)	67	43.3	31.3	34.3	31.3	16.4	26.9	16.4	1.5	3.0	1.5	14.9
自営業	32	71.9	25.0	25.0	15.6	18.8	12.5	12.5	9.4	6.3	-	12.5
学生	2	-	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-	-	50.0
家事専業	46	63.0	41.3	32.6	28.3	19.6	26.1	10.9	6.5	2.2	2.2	4.3
年金生活者	180	66.7	25.0	17.8	11.1	15.0	12.8	9.4	7.8	7.8	2.2	13.9

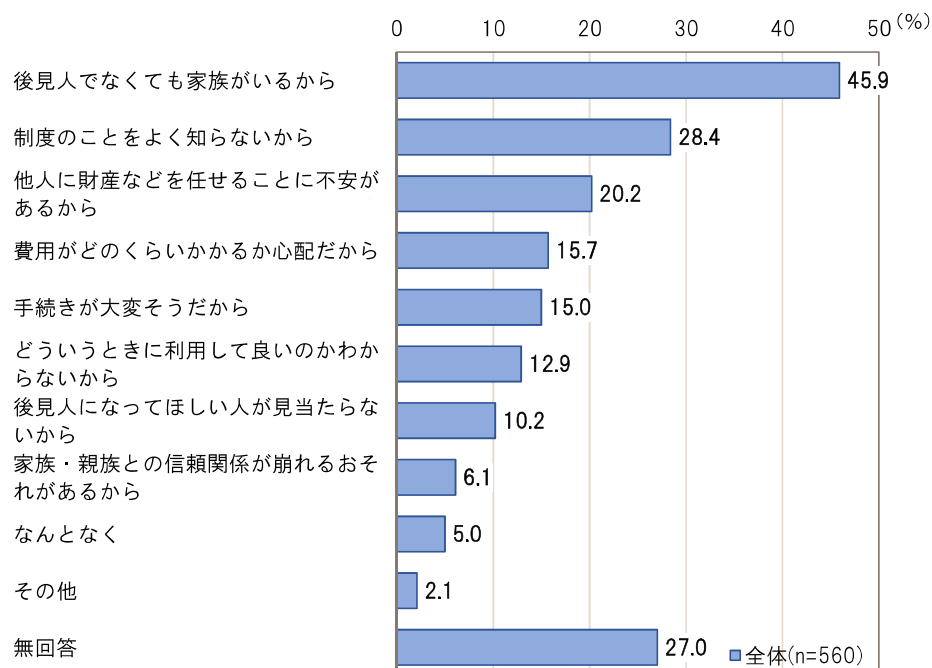
※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

②自分の家族や親族の場合

※(1)②で「利用したくない」または「わからない」と回答した人のみ

- 自分の家族や親族の場合に成年後見制度を利用したいと思わない理由では、「後見人でなくても家族がいるから」が45.9%と4割以上を占めて最も多く、次いで「制度のことをよく知らないから」(28.4%)、「他人に財産などを任せることに不安があるから」(20.2%)の順となっており、利用しない理由では①の自分自身の場合と同様の結果となっています。
- 年代別にみると、20～29歳では「制度のことをよく知らないから」、30歳以上では「後見人でなくても家族がいるから」が最も多くなっています。



(%)

	回答者数(人)	後見人でなくても家族がいるから	制度のことをよく知らないから	他人に財産などを任せることに不安があるから	費用がどのくらいかかるか心配だから	手続きが大変そうだから	どういうときに利用して良いのかわからないから	後見人になってほしい人が見当たらないから	家族・親族との信頼関係が崩れるおそれがあるから	なんとなく	その他	無回答
年代別												
20～29歳	34	41.2	55.9	26.5	23.5	29.4	14.7	5.9	2.9	8.8	-	8.8
30～39歳	65	50.8	47.7	33.8	26.2	21.5	21.5	20.0	6.2	6.2	1.5	12.3
40～49歳	95	52.6	38.9	24.2	22.1	25.3	22.1	15.8	7.4	5.3	1.1	16.8
50～59歳	89	49.4	28.1	28.1	24.7	18.0	13.5	13.5	6.7	3.4	5.6	19.1
60～69歳	85	60.0	25.9	21.2	10.6	9.4	8.2	8.2	9.4	-	1.2	17.6
70～79歳	109	33.9	11.0	9.2	7.3	7.3	7.3	3.7	6.4	4.6	1.8	46.8
80歳以上	80	32.5	15.0	7.5	3.8	5.0	6.3	5.0	1.3	10.0	2.5	51.3

※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

- 家族構成別にみると、親子世帯、ひとり親と子世帯では「他人に財産などを任せることに不安があるから」や「費用がどのくらいかかるか心配だから」、「手続きが大変そうだから」が、その他の世帯に比べてやや多くなっています。
- 職業別にみると、勤め人（常勤）と自営業では「後見人でなくても家族がいるから」が半数を超えてその他の職業に比べてやや多くなっています。

(%)

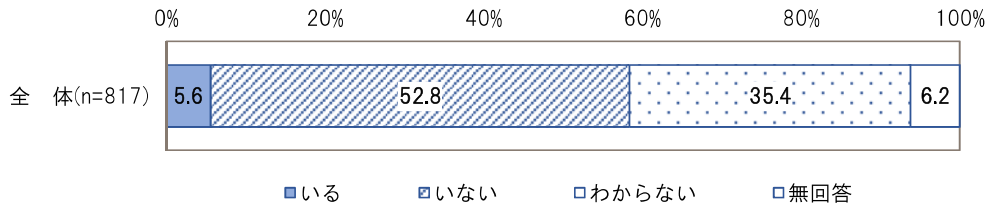
	回答者数（人）	後見人でなくても家族がいるから	制度のことをよく知らないから	他人に財産などを任せることに不安があるから	費用がどのくらいかかるか心配だから	手続きが大変そうだから	どういうときに利用して良いかわからないから	後見人になってほしい人が見当たらないから	家族・親族との信頼関係が崩れるおそれがあるから	なんとなく	その他	無回答
家族構成別												
ひとり暮らし	143	32.9	23.1	14.0	9.1	9.1	11.2	7.7	3.5	9.1	4.2	36.4
夫婦のみ	154	52.6	27.9	18.8	11.7	14.3	13.6	11.0	7.1	3.9	0.6	24.0
親子	196	48.5	28.6	26.0	21.9	18.4	12.2	11.2	6.6	2.6	1.5	24.5
三世帯	20	50.0	30.0	5.0	10.0	5.0	15.0	-	-	-	-	30.0
ひとり親と子	32	59.4	46.9	34.4	31.3	25.0	18.8	18.8	9.4	12.5	6.3	12.5
職業別												
勤め人（常勤）	205	54.6	39.5	23.9	18.5	19.5	16.6	15.1	6.8	5.4	1.0	14.1
勤め人（非常勤）	67	43.3	23.9	26.9	22.4	22.4	10.4	11.9	1.5	4.5	1.5	26.9
自営業	32	53.1	21.9	12.5	15.6	9.4	12.5	3.1	6.3	6.3	-	21.9
学生	2	50.0	50.0	50.0	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-
家事専業	46	47.8	41.3	32.6	26.1	19.6	15.2	8.7	13.0	2.2	2.2	10.9
年金生活者	180	39.4	14.4	12.2	7.8	7.2	7.8	5.0	5.0	4.4	2.8	42.8

※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(3) 周囲に成年後見制度の利用が必要と思われる人の有無

- 周囲に成年後見制度の利用が必要と思われる人の有無では、「いない」が52.8%と半数以上を占めており、「いる」は5.6%となっています。
- 年代別にみると、すべての年代で「いる」は1割未満となっており、年代別での大きな差はみられません。一方で、70歳以上では「わからない」が最も多くなっています。
- 現在の住居での居住年数別にみると、概ね、居住年数が短いほど「いない」が多くなる傾向がみられます。



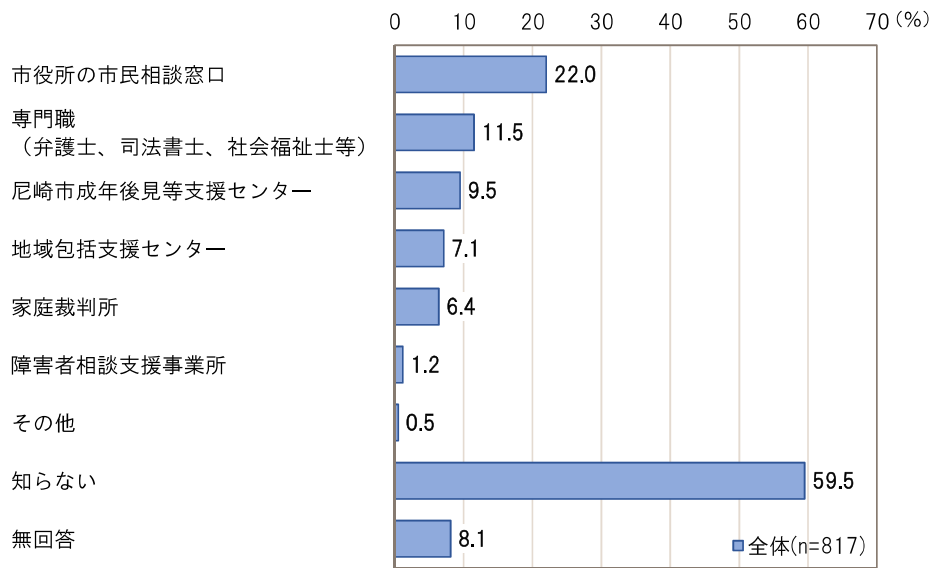
	回答者数 (人)	いる	いない	わからない	無回答
(%)					
年代別					
20～29歳	46	2.2	63.0	34.8	0.0
30～39歳	91	4.4	64.8	28.6	2.2
40～49歳	125	5.6	63.2	26.4	4.8
50～59歳	123	5.7	56.1	30.9	7.3
60～69歳	131	6.9	63.4	27.5	2.3
70～79歳	169	5.3	43.2	46.2	5.3
80歳以上	129	7.0	28.7	47.3	17.1
現在の住居での居住年数別					
1年未満	44	2.3	61.4	34.1	2.3
1年以上5年未満	146	3.4	57.5	32.9	6.2
5年以上10年未満	110	4.5	57.3	30.9	7.3
10年以上30年未満	281	6.0	50.9	38.1	5.0
30年以上	232	7.8	48.7	35.8	7.8

※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(4) 成年後見制度についての相談先

- 成年後見制度についての相談先では、「知らない」が59.5%と約6割を占めて最も多くなっています。知っている人の中では「市役所の市民相談窓口」が22.0%と2割以上を占めて多く、次いで「専門職（弁護士、司法書士、社会福祉士等）」（11.5%）となっており、その他の機関は1割未満の認知度となっています。
- 性別にみると、男性に比べて女性で「専門職（弁護士、司法書士、社会福祉士等）」がやや多くなっています。
- 年代別にみると、概ね年代が下がるにつれて「知らない」の割合が多くなる傾向がみられ、20～29歳では9割近くを占めています。



(%)

	回答者数 (人)	市役所の市民相談窓口	専門職 (弁護士、司法書士、社会福祉士等)	尼崎市成年後見等支援センター	地域包括支援センター	家庭裁判所	障害者相談支援事業所	その他	知らない	無回答
性別										
男性	360	22.2	8.6	9.4	6.1	5.8	0.8	-	62.2	6.9
女性	454	22.0	13.9	9.7	7.9	6.8	1.5	0.9	57.3	8.8
年代別										
20～29歳	46	8.7	6.5	2.2	4.3	4.3	-	-	87.0	2.2
30～39歳	91	22.0	6.6	11.0	7.7	3.3	1.1	-	68.1	1.1
40～49歳	125	16.8	8.8	4.8	3.2	5.6	1.6	0.8	72.0	3.2
50～59歳	123	19.5	8.9	4.9	6.5	5.7	1.6	-	66.7	6.5
60～69歳	131	29.8	19.8	13.0	9.2	8.4	1.5	0.8	54.2	3.1
70～79歳	169	26.0	11.2	13.0	7.7	8.3	0.6	0.6	46.2	14.2
80歳以上	129	21.7	14.0	11.6	9.3	6.2	1.6	0.8	47.3	18.6

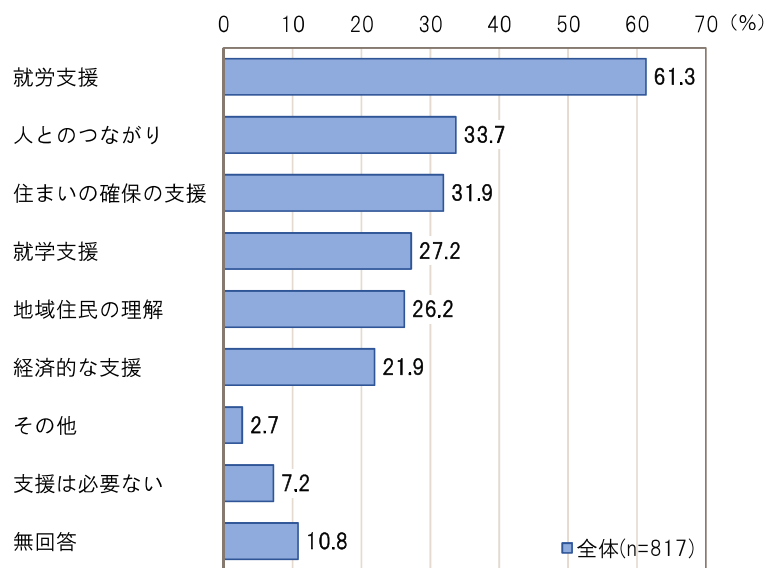
※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

6. 非行や犯罪をした人の立ち直りについて

(1) 非行や犯罪をした人の立ち直りのために必要だと思うこと

- 非行や犯罪をした人の立ち直りのために必要だと思うことでは、「就労支援」が61.3%と6割以上を占めて最も多く、次いで「人とのつながり」(33.7%)、「住まいの確保の支援」(31.9%)の順となっています。
- 性別にみると、各項目で男性に比べて女性の割合が高く、男性では「支援は必要ない」が約1割を占め、女性に比べて多くなっています。
- 年代別にみると、すべての年代で「就労支援」が最も多くなっています。また、30～39歳では「就学支援」が約4割を占め、その他の年代に比べてやや多くなっています。また、20～29歳では「支援は必要ない」が23.9%と2割以上を占め、その他の年代に比べて多くなっています。



(%)

	回答者数 (人)	就労 支援	人との つながり	住 まいの 確保の 支援	就学 支援	地 域住 民の 理 解	経 済 的 な 支 援	そ の 他	支 援 は 必 要 な い	無 回 答
性別										
男性	360	59.7	27.8	26.7	23.9	22.5	18.9	2.2	10.3	10.6
女性	454	62.8	38.5	36.3	30.0	29.3	24.4	3.1	4.4	11.0
年代別										
20～29歳	46	58.7	32.6	26.1	30.4	21.7	19.6	-	23.9	2.2
30～39歳	91	74.7	38.5	36.3	40.7	27.5	16.5	-	9.9	1.1
40～49歳	125	64.8	36.8	34.4	32.8	27.2	20.8	3.2	8.0	5.6
50～59歳	123	69.1	34.1	35.0	28.5	22.0	22.0	3.3	6.5	5.7
60～69歳	131	67.9	37.4	34.4	27.5	26.0	24.4	4.6	3.8	6.9
70～79歳	169	52.7	30.2	31.4	20.1	28.4	22.5	1.8	7.7	17.8
80歳以上	129	48.1	27.1	24.8	19.4	27.9	24.8	3.9	1.6	25.6

※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

- 家族構成別にみると、ひとり親と子世帯で「住まいの確保の支援」がその他の世帯に比べて多くなっています。
- 職業別にみると、勤め人（常勤）で「就労支援」、家事専業で「人とのつながり」や「地域住民の理解」がその他の職業に比べてやや多くなっています。

(%)

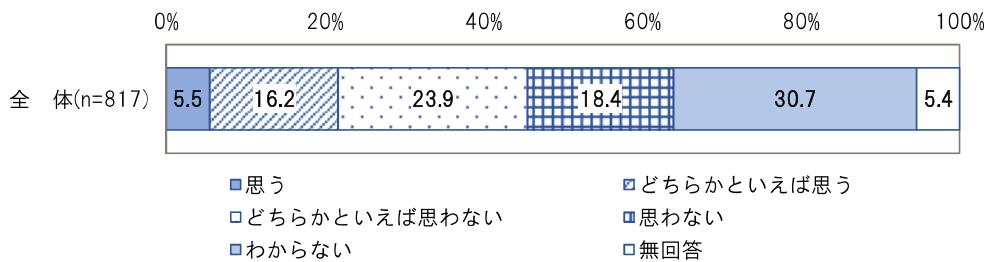
	回答者数 (人)	就労支援	人との つながり	住まいの 確保の 支援	就学支援	地域住民の 理解	経済的な 支援	その他	支援は 必要ない	無回答
家族構成別										
ひとり暮らし	210	55.7	34.8	31.0	26.7	26.7	23.3	2.9	7.6	14.8
夫婦のみ	223	62.8	34.5	31.4	22.9	22.4	24.2	4.5	5.8	8.1
親子	277	64.3	33.6	31.4	32.1	30.7	19.5	0.7	8.7	9.0
三世代	30	60.0	33.3	33.3	26.7	26.7	20.0	3.3	3.3	16.7
ひとり親と子	50	64.0	28.0	42.0	30.0	24.0	24.0	6.0	6.0	8.0
職業別										
勤め人（常勤）	286	68.2	34.3	31.1	35.3	22.4	21.0	1.7	9.1	3.8
勤め人（非常勤）	96	65.6	33.3	34.4	22.9	24.0	17.7	1.0	6.3	9.4
自営業	50	66.0	30.0	36.0	24.0	20.0	20.0	-	6.0	10.0
学生	3	66.7	33.3	-	-	-	33.3	-	-	-
家事専業	62	61.3	41.9	35.5	30.6	40.3	21.0	3.2	9.7	14.5
年金生活者	274	55.1	32.5	31.8	22.6	28.8	24.8	2.9	4.4	16.8

※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(2) 非行や犯罪をした人の立ち直りへの協力の意向

- ・非行や犯罪をした人の立ち直りへの協力の意向では、「わからない」が30.7%と約3割を占めて最も多くなっているものの、次いで「どちらかといえば思わない」が2割以上(23.9%)となっており、「思わない」(18.4%)と合わせると、協力意向のない人が4割以上となっています。
- ・協力意向のある人(「思う」+「どちらかといえば思う」)は、2割程度となっています。
- ・性別にみると、女性に比べて男性で「思わない」が多くなっています。
- ・年代別にみると、協力意向のある人が20~29歳、80歳以上でともに25%程度と、その他の年代に比べてやや多くなっています。また、30~39歳では協力意向のない人が半数以上を占め、その他の年代に比べてやや多くなっています。
- ・職業別にみると、自営業で協力意向のある人がやや多くなっています。



(%)

	回答者数 (人)	思う	どちらか といえば 思う	どちらか といえば 思わない	思わない	わからない	無回答
性別							
男性	360	6.9	17.8	22.5	21.7	27.2	3.9
女性	454	4.4	15.0	25.1	15.4	33.5	6.6
年代別							
20~29歳	46	-	26.1	17.4	30.4	26.1	-
30~39歳	91	6.6	14.3	22.0	34.1	22.0	1.1
40~49歳	125	7.2	16.8	30.4	16.8	27.2	1.6
50~59歳	123	3.3	20.3	29.3	18.7	23.6	4.9
60~69歳	131	2.3	16.0	32.8	15.3	30.5	3.1
70~79歳	169	7.1	10.1	18.9	13.0	44.4	6.5
80歳以上	129	8.5	17.1	14.0	14.0	31.0	15.5
職業別							
勤め人(常勤)	286	5.6	19.2	25.2	22.4	25.9	1.7
勤め人(非常勤)	96	2.1	13.5	33.3	14.6	32.3	4.2
自営業	50	10.0	20.0	26.0	16.0	22.0	6.0
学生	3	-	33.3	-	33.3	33.3	-
家事専業	62	3.2	17.7	29.0	17.7	27.4	4.8
年金生活者	274	5.8	13.1	20.1	15.7	36.9	8.4

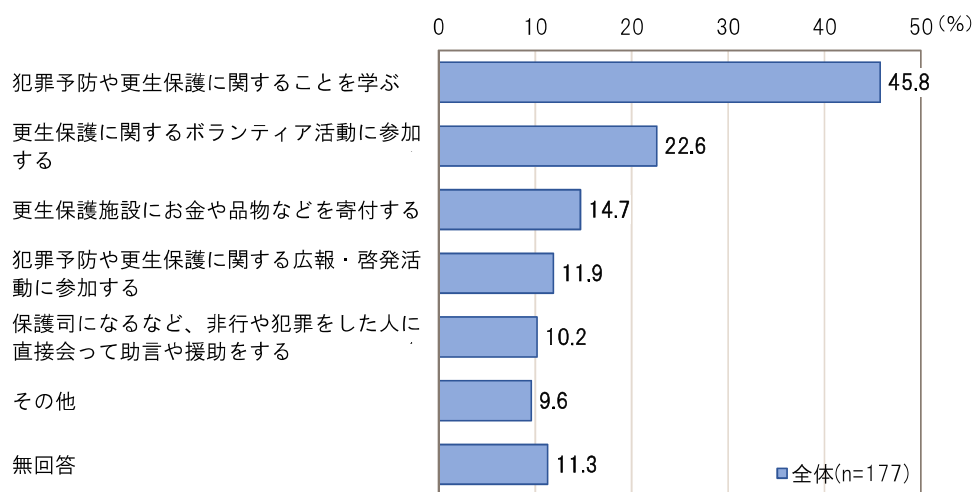
※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(3) 非行や犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思う内容

※(2)で「思う」または「どちらかといえば思う」と回答した人のみ

- 非行や犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思う人のその内容では、「犯罪予防や更生保護に関することを学ぶ」が45.8%と4割以上を占めて最も多く、次いで「更生保護に関するボランティア活動に参加する」(22.6%)、「更生保護施設にお金や品物などを寄付する」(14.7%)の順となっています。
- 性別にみると、男性では「犯罪予防や更生保護に関する広報・啓発活動に参加する」、女性では「更生保護施設にお金や品物などを寄付する」でそれぞれ多くなっています。
- 年代別にみると、すべての年代で「犯罪予防や更生保護に関することを学ぶ」が最も多くなっています。また、30～39歳では「更生保護に関するボランティア活動に参加する」が4割以上を占め、その他の年代に比べてやや多くなっています。



(%)

	回答者数 (人)	犯罪予防や更生保護に関することを学ぶ	更生保護に関するボランティア活動に参加する	更生保護施設にお金や品物などを寄付する	犯罪予防や更生保護に関する広報・啓発活動に参加する	保護司になるなど、非行や犯罪をした人に直接会って助言や援助をする	その他	無回答
性別								
男性	89	42.7	21.3	10.1	19.1	11.2	7.9	12.4
女性	88	48.9	23.9	19.3	4.5	9.1	11.4	10.2
年代別								
20～29歳	12	75.0	8.3	25.0	16.7	8.3	-	-
30～39歳	19	63.2	42.1	15.8	15.8	10.5	5.3	-
40～49歳	30	53.3	26.7	20.0	10.0	13.3	16.7	-
50～59歳	29	41.4	24.1	10.3	10.3	13.8	20.7	6.9
60～69歳	24	41.7	16.7	20.8	8.3	4.2	8.3	12.5
70～79歳	29	31.0	31.0	17.2	17.2	10.3	-	13.8
80歳以上	33	39.4	6.1	3.0	9.1	9.1	9.1	33.3

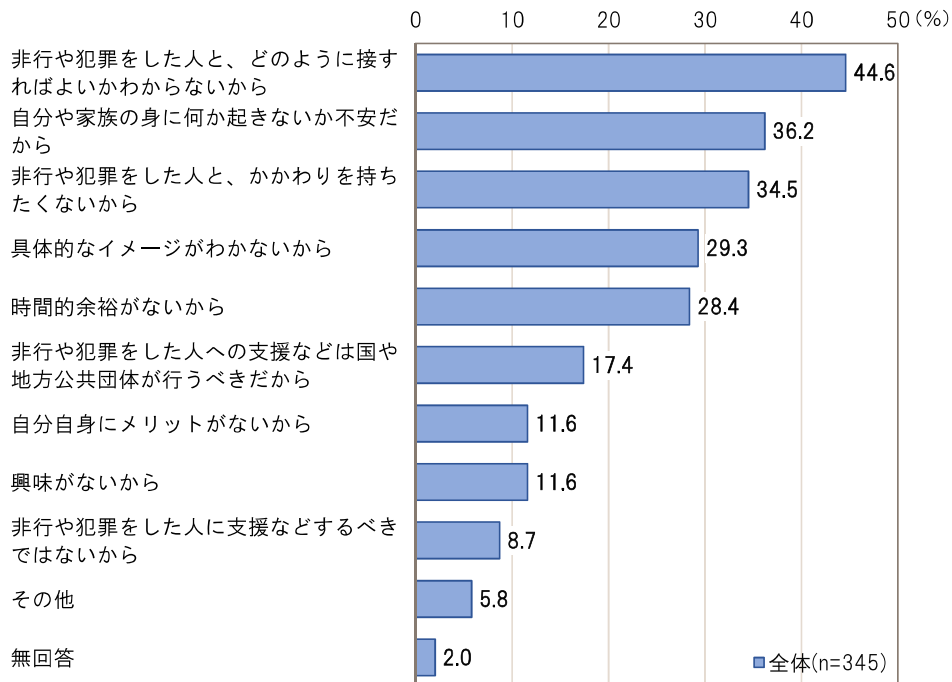
※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(4) 非行や犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思わない理由

※(2)で「どちらかといえば思わない」または「思わない」と回答した人のみ

- 非行や犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思わない人のその理由では、「非行や犯罪をした人と、どのように接すればよいかわからないから」が44.6%と4割以上を占めて最も多く、次いで「自分や家族の身に何か起きないか不安だから」(36.2%)、「非行や犯罪をした人と、かわりを持ちたくないから」(34.5%)の順となっています。
- 性別にみると、男性では「非行や犯罪をした人と、かわりを持ちたくないから」、女性では「非行や犯罪をした人と、どのように接すればよいかわからないから」が最も多くなっています。



	回答者数(人)	不知道怎么接才好	自分や家族の身に何か起きないか不安だから	非行や犯罪をした人と、かわりを持ちたくないから	具体的なイメージがわからないから	時間的余裕がないから	国や地方公共団体が行うべきだから	自分自身にメリットがないから	興味がないから	非行や犯罪をした人に支援などするべきではないから	その他	無回答
性別												
男性	159	37.1	36.5	40.3	30.8	25.2	23.9	17.0	17.6	13.2	6.3	0.6
女性	184	51.1	35.9	29.3	27.7	30.4	12.0	6.5	6.0	4.3	5.4	3.3

※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

- 年代別にみると、概ね年代が上がるにつれて「非行や犯罪をした人への支援などは国や地方公共団体が行うべきだから」の割合が多くなる傾向がみられます。
- 家族構成別にみると、親子世帯で「非行や犯罪をした人と、どのように接すればよいかわからないから」が半数近くを占めて多くなっています。
- 地区別にみると、小田地区では「自分や家族の身に何か起きないか不安だから」が最も多くなっています。
- 職業別にみると、勤め人や自営業では「時間的余裕がないから」がやや多くなっています。

(%)

	回答者数 (人)	非行や犯罪をした人とのように接すればよいかわからないから	自分や家族の身に何か起きないか不安だから	非行や犯罪をした人と、かわりを持ちたくないから	具体的なイメージがわからないから	時間的余裕がないから	国や地方公共団体が行うべきだから	自分自身にメリットがないから	興味がないから	非行や犯罪をした人に支援などするべきではないから	その他	無回答
年代別												
20～29歳	22	4.5	22.7	50.0	22.7	22.7	9.1	40.9	40.9	31.8	4.5	-
30～39歳	51	39.2	45.1	45.1	17.6	39.2	9.8	23.5	15.7	9.8	5.9	-
40～49歳	59	42.4	35.6	25.4	27.1	40.7	15.3	6.8	11.9	10.2	1.7	3.4
50～59歳	59	40.7	52.5	33.9	35.6	49.2	22.0	5.1	5.1	6.8	6.8	-
60～69歳	63	60.3	34.9	23.8	36.5	11.1	17.5	6.3	6.3	1.6	9.5	-
70～79歳	54	53.7	25.9	31.5	27.8	13.0	22.2	3.7	7.4	9.3	3.7	3.7
80歳以上	36	44.4	22.2	47.2	30.6	13.9	22.2	13.9	11.1	2.8	8.3	8.3
家族構成別												
ひとり暮らし	83	41.0	33.7	37.3	28.9	19.3	15.7	14.5	10.8	8.4	6.0	7.2
夫婦のみ	89	43.8	31.5	34.8	29.2	27.0	21.3	9.0	9.0	9.0	9.0	-
親子	129	49.6	41.1	29.5	31.8	31.8	17.1	10.9	13.2	7.8	3.9	-
三世帯	10	40.0	10.0	40.0	30.0	30.0	10.0	10.0	20.0	10.0	10.0	-
ひとり親と子	22	31.8	50.0	36.4	9.1	36.4	13.6	9.1	4.5	4.5	4.5	4.5
地区別												
中央地区	45	46.7	33.3	31.1	22.2	33.3	11.1	8.9	17.8	6.7	8.9	2.2
小田地区	49	38.8	44.9	42.9	18.4	24.5	24.5	12.2	16.3	10.2	4.1	-
大庄地区	27	63.0	40.7	29.6	51.9	18.5	14.8	7.4	3.7	3.7	3.7	-
立花地区	66	47.0	40.9	42.4	28.8	30.3	18.2	10.6	12.1	13.6	1.5	1.5
武庫地区	84	40.5	33.3	22.6	34.5	29.8	16.7	8.3	9.5	6.0	7.1	4.8
園田地区	67	43.3	31.3	38.8	22.4	25.4	19.4	17.9	7.5	9.0	9.0	1.5
80歳以上	45	46.7	33.3	31.1	22.2	33.3	11.1	8.9	17.8	6.7	8.9	2.2
職業別												
勤め人(常勤)	136	35.3	40.4	38.2	25.7	39.0	17.6	16.9	14.7	11.0	3.7	-
勤め人(非常勤)	46	56.5	37.0	28.3	30.4	32.6	8.7	6.5	4.3	-	6.5	-
自営業	21	38.1	33.3	28.6	23.8	47.6	19.0	4.8	9.5	9.5	-	-
学生	1	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-
家事専業	29	44.8	44.8	34.5	34.5	20.7	20.7	10.3	6.9	13.8	3.4	3.4
年金生活者	98	56.1	32.7	32.7	32.7	9.2	21.4	8.2	9.2	5.1	9.2	4.1

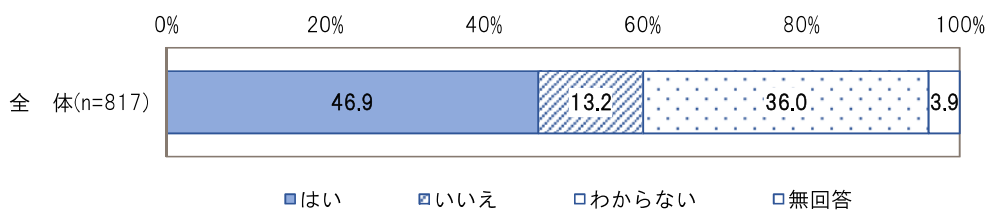
※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

7. 災害時の支援について

(1) 南海トラフ巨大地震の想定浸水域内の居住

- 南海トラフ巨大地震の想定浸水域内の居住の状況では、「はい（想定浸水域内に住んでいる）」が46.9%、「いいえ（想定浸水域内に住んでいない）」が13.2%となっています。また、「わからない」が36.0%と3割以上を占めています。
- 年代別にみると、20～29歳では「わからない」が56.5%と半数以上を占めています。
- 居住地区別にみると、中央地区と大庄地区では「わからない」が3割未満と、その他の地区に比べてやや少なくなっています。
- 現在の住居での居住年数別にみると、概ね、居住年数が短いほど、「分からない」の割合が多くなる傾向がみられ、1年未満では半数近くを占めています。



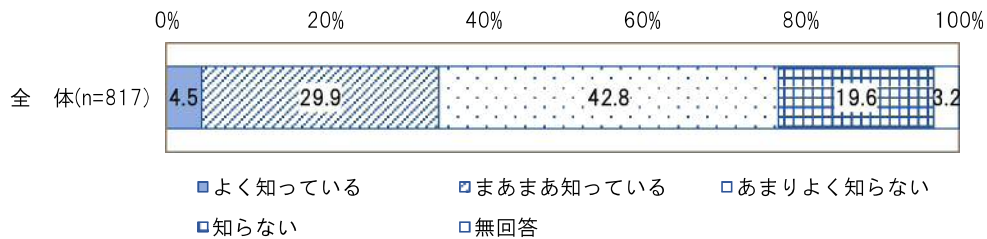
	回答者数 (人)	はい	いいえ	わからない	無回答
(%)					
年代別					
20～29歳	46	32.6	10.9	56.5	-
30～39歳	91	46.2	19.8	34.1	-
40～49歳	125	42.4	14.4	41.6	1.6
50～59歳	123	51.2	13.8	32.5	2.4
60～69歳	131	51.1	13.7	30.5	4.6
70～79歳	169	48.5	9.5	37.3	4.7
80歳以上	129	47.3	12.4	30.2	10.1
地区別					
中央地区	100	70.0	2.0	25.0	3.0
小田地区	121	50.4	5.8	37.2	6.6
大庄地区	68	72.1	2.9	23.5	1.5
立花地区	165	39.4	17.0	38.2	5.5
武庫地区	172	33.1	26.2	37.2	3.5
園田地区	165	46.7	12.1	38.8	2.4
現在の住居での居住年数別					
1年未満	44	36.4	15.9	47.7	0.0
1年以上5年未満	146	39.7	15.8	42.5	2.1
5年以上10年未満	110	45.5	17.3	35.5	1.8
10年以上30年未満	281	46.6	12.1	38.4	2.8
30年以上	232	55.2	10.3	26.3	8.2

※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(2) 南海トラフ巨大地震による被害想定への認知度

- ・南海トラフ巨大地震による被害想定への認知度では、「あまりよく知らない」が42.8%と4割以上を占めて最も多く、「知らない」(19.6%)と合わせると、6割以上の人知らない結果となっています。被害想定を知っている人(「よく知っている」+「まあまあ知っている」)は、3割程度となっています。
- ・年代別にみると、被害想定を知っている人では40~49歳で4割を超えて多くなっています。
- ・家族構成別にみると、三世帯世帯で被害想定を知っている人が多くなっています。
- ・地区別にみると、中央地区と大庄地区で被害想定を知っている人が多くなっています。
- ・居住年数別にみると、概ね居住年数が高いほど被害想定を知っている人が多くなっています。



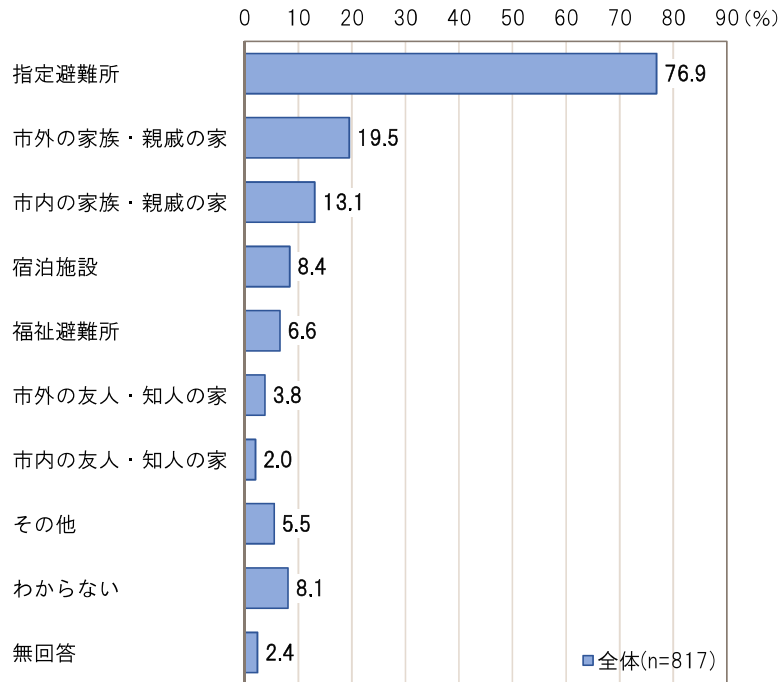
	(人) 回答者数	よく 知っている	まあ まあ 知っている	あまり よく 知らない	知らない	無 回答
年代別						
20~29歳	46	-	28.3	26.1	45.7	-
30~39歳	91	4.4	30.8	45.1	19.8	-
40~49歳	125	1.6	40.0	37.6	19.2	1.6
50~59歳	123	6.5	23.6	53.7	13.8	2.4
60~69歳	131	0.8	29.8	46.6	19.8	3.1
70~79歳	169	7.1	30.8	40.8	16.0	5.3
80歳以上	129	7.8	24.8	40.3	20.9	6.2
家族構成別						
ひとり暮らし	210	4.3	26.7	42.9	21.9	4.3
夫婦のみ	223	6.3	26.9	39.9	23.3	3.6
親子	277	3.6	33.2	46.9	15.2	1.1
三世帯	30	6.7	40.0	33.3	13.3	6.7
ひとり親と子	50	-	32.0	48.0	18.0	2.0
地区別						
中央地区	100	6.0	38.0	35.0	18.0	3.0
小田地区	121	3.3	28.1	42.1	19.8	6.6
大庄地区	68	7.4	41.2	45.6	4.4	1.5
立花地区	165	4.8	28.5	45.5	17.6	3.6
武庫地区	172	2.3	29.1	39.5	26.2	2.9
園田地区	165	5.5	26.1	46.1	20.6	1.8
現在の住居での居住年数別						
1年未満	44	4.5	22.7	34.1	36.4	2.3
1年以上5年未満	146	2.1	28.8	39.0	28.8	1.4
5年以上10年未満	110	2.7	30.9	48.2	16.4	1.8
10年以上30年未満	281	4.3	28.8	45.9	18.5	2.5
30年以上	232	7.3	33.2	40.5	13.4	5.6

※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(3) 災害時の避難先候補として考えているところ

- ・災害時の避難先候補として考えているところでは、「指定避難所」が76.9%と7割以上を占めて最も多く、その他の項目と比べて突出して多くなっています。次いで、「市外の家族・親戚の家」(19.5%)、「市内の家族・親戚の家」(13.1%)の順となっています。
- ・性別にみると、女性で「市内の家族・親戚の家」が男性に比べてやや多くなっています。
- ・年代別にみると、すべての年代で「指定避難所」が最も多くなっているものの、20~29歳では「わからない」が約2割を占め、その他の年代に比べてやや多くなっています。



(%)

	回答者数 (人)	指定避難所	市外の家族・親戚の家	市内の家族・親戚の家	宿泊施設	福祉避難所	市外の友人・知人の家	市内の友人・知人の家	その他	わからない	無回答
性別											
男性	360	76.4	19.7	9.4	9.4	5.8	1.7	1.4	6.1	10.0	1.7
女性	454	77.5	19.2	16.1	7.7	7.3	5.3	2.4	5.1	6.4	3.1
年代別											
20~29歳	46	73.9	17.4	6.5	4.3	2.2	8.7	2.2	-	19.6	-
30~39歳	91	81.3	31.9	14.3	6.6	4.4	11.0	4.4	-	4.4	-
40~49歳	125	77.6	24.8	13.6	10.4	6.4	5.6	2.4	4.0	8.8	0.8
50~59歳	123	82.1	16.3	13.8	7.3	4.1	2.4	0.8	8.9	4.1	2.4
60~69歳	131	81.7	19.8	15.3	13.0	6.9	1.5	0.8	6.1	8.4	-
70~79歳	169	73.4	16.0	13.6	5.9	3.0	-	3.0	7.7	8.3	2.4
80歳以上	129	69.8	12.4	9.3	9.3	16.3	2.3	0.8	6.2	9.3	9.3

※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

- 家族構成別にみると、三世帯世帯で「市外の家族・親戚の家」、親子世帯で「市内の家族・親戚の家」が、それぞれその他の世帯に比べてやや多くなっています。
- 地区別にみると、小田地区・武庫地区では「市内の家族・親戚の家」、中央地区では「宿泊施設」が、その他の地区に比べて多くなっています。
- 現在の住居での居住年数別にみると、1年未満では「わからない」が1割を超えて、その他の居住年数に比べてやや多くなっています。

(%)

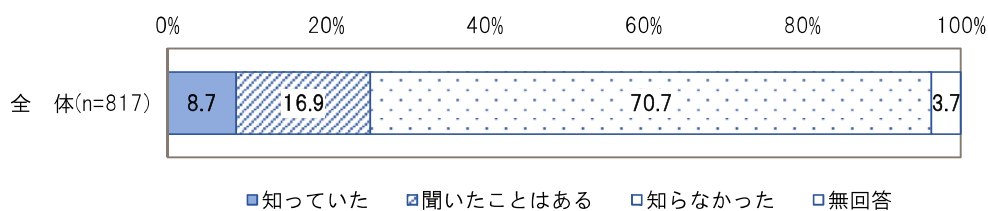
	回答者数 (人)	指定避難所	市外の家族・親戚の家	市内の家族・親戚の家	宿泊施設	福祉避難所	市外の友人・知人の家	市内の友人・知人の家	その他	わからない	無回答
家族構成別											
ひとり暮らし	210	68.1	20.5	12.9	6.7	7.6	6.2	4.3	5.2	12.4	1.9
夫婦のみ	223	81.6	18.8	12.6	9.9	5.4	0.9	1.8	5.8	5.4	2.2
親子	277	81.9	19.5	16.2	10.1	7.2	3.2	1.1	5.8	5.4	1.4
三世帯	30	66.7	30.0	3.3	3.3	3.3	0.0	-	3.3	13.3	10.0
ひとり親と子	50	80.0	12.0	10.0	6.0	6.0	6.0	-	6.0	10.0	4.0
地区別											
中央地区	100	73.0	17.0	10.0	13.0	9.0	4.0	2.0	9.0	7.0	4.0
小田地区	121	79.3	11.6	16.5	6.6	7.4	3.3	1.7	5.8	5.0	4.1
大庄地区	68	80.9	14.7	10.3	4.4	5.9	1.5	1.5	5.9	7.4	1.5
立花地区	165	78.2	26.7	12.7	10.9	3.0	5.5	3.0	4.8	8.5	1.8
武庫地区	172	77.3	23.3	16.9	5.2	5.8	2.9	1.7	2.9	8.7	1.7
園田地区	165	75.2	18.2	10.9	9.7	9.7	3.6	1.2	6.1	9.7	2.4
現在の住居での居住年数別											
1年未満	44	70.5	15.9	9.1	11.4	2.3	2.3	4.5	-	13.6	0.0
1年以上 5年未満	146	74.0	24.7	8.9	4.1	5.5	8.2	1.4	3.4	10.3	2.1
5年以上 10年未満	110	79.1	22.7	14.5	12.7	8.2	5.5	0.9	7.3	3.6	1.8
10年以上 30年未満	281	79.7	15.7	16.0	8.2	5.0	1.8	2.1	6.0	9.3	0.7
30年以上	232	76.3	19.8	12.5	9.1	9.5	2.6	2.2	6.5	5.6	5.6

※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(4) 福祉避難所の認知度

- 福祉避難所の認知度では、「知らなかった」が70.7%と約7割を占めて最も多く、「知っていた」(8.7%)と「聞いたことはある」(16.9%)を合わせた、福祉避難所を知っている人は3割未満となっています。
- 性別にみると、男性では「知っていた」が1割以上となっており、女性(5.3%)に比べて、2倍以上の認知率となっています。
- 年代別にみると、福祉避難所を知っている人では80歳以上で約3割と最も多く、反対に20～29歳では2割未満と最も少なくなっています。
- 家族構成別にみると、ひとり暮らし世帯や夫婦のみ世帯、三世帯世帯で「知っていた」が1割程度となっており、やや多くなっています。



(%)

	回答者数 (人)	知っていた	聞いたことはある	知らなかった	無回答
性別					
男性	360	12.8	16.4	68.9	1.9
女性	454	5.3	17.2	72.5	5.1
年代別					
20～29歳	46	8.7	8.7	80.4	2.2
30～39歳	91	6.6	17.6	74.7	1.1
40～49歳	125	7.2	16.0	76.8	-
50～59歳	123	10.6	15.4	71.5	2.4
60～69歳	131	6.1	17.6	75.6	0.8
70～79歳	169	6.5	20.7	68.0	4.7
80歳以上	129	14.7	15.5	58.1	11.6
家族構成別					
ひとり暮らし	210	11.4	16.7	68.6	3.3
夫婦のみ	223	11.2	13.5	72.2	3.1
親子	277	5.1	18.4	74.4	2.2
三世帯	30	10.0	10.0	70.0	10.0
ひとり親と子	50	6.0	26.0	62.0	6.0

※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

- 地区別にみると、大庄地区・園田地区では「知っていた」が約1割以上となっており、その他の地区に比べてやや多くなっています。
- 現在の住居での居住年数別にみると、大きな差はみられません。

(%)

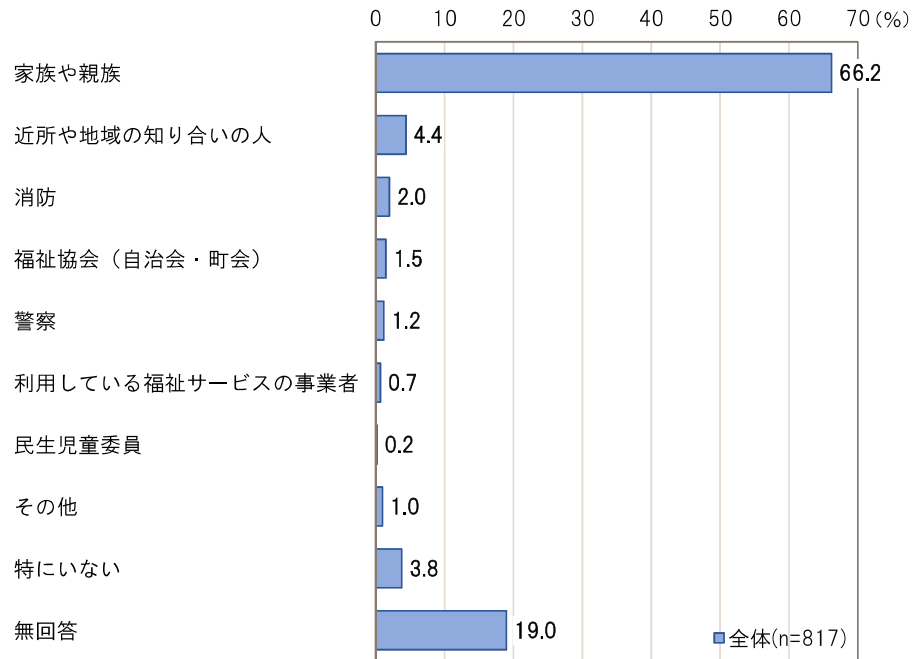
	回答者数 (人)	知っていた	聞いたことはある	知らなかった	無回答
地区別					
中央地区	100	8.0	22.0	66.0	4.0
小田地区	121	6.6	15.7	72.7	5.0
大庄地区	68	10.3	14.7	66.2	8.8
立花地区	165	7.9	16.4	70.3	5.5
武庫地区	172	8.1	18.0	73.8	-
園田地区	165	10.3	15.2	71.5	3.0
現在の住居での居住年数別					
1年未満	44	9.1	13.6	77.3	-
1年以上 5年未満	146	8.9	16.4	74.0	0.7
5年以上 10年未満	110	9.1	18.2	69.1	3.6
10年以上 30年未満	281	7.8	14.9	73.7	3.6
30年以上	232	9.1	19.4	65.1	6.5

※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(5) 災害時に安否確認等の声かけをしてもらいたいと思う人

- ・災害時に安否確認等の声かけをしてもらいたいと思う人では、「家族や親族」が66.2%と6割以上を占め、その他の項目と比べて突出して多くなっています。
- ・性別にみると、男性で「特にいない」が女性に比べてやや多くなっています。
- ・年代別にみると、すべての年代で「家族や親族」が最も多くなっているものの、60歳以上では「近所や地域の知り合いの人」が20~59歳に比べてやや多くなっています。



(%)

	回答者数 (人)	家族や親族	近所や地域の知り合いの人	消防	福祉協会 (自治会・町会)	警察	利用している福祉サービスの事業者	民生児童委員	その他	特にいない	無回答
性別											
男性	360	67.2	5.3	0.8	1.4	1.9	0.3	-	1.1	6.1	15.8
女性	454	65.9	3.7	2.9	1.5	0.7	1.1	0.4	0.9	1.5	21.4
年代別											
20~29歳	46	73.9	-	2.2	-	2.2	2.2	-	-	4.3	15.2
30~39歳	91	74.7	1.1	2.2	-	1.1	-	-	1.1	3.3	16.5
40~49歳	125	62.4	3.2	5.6	1.6	0.8	-	-	1.6	1.6	23.2
50~59歳	123	66.7	1.6	2.4	-	2.4	-	-	1.6	4.1	21.1
60~69歳	131	65.6	6.1	0.8	0.8	2.3	-	-	1.5	2.3	20.6
70~79歳	169	65.1	6.5	0.6	1.8	0.6	1.2	0.6	-	5.3	18.3
80歳以上	129	63.6	7.8	0.8	4.7	-	2.3	0.8	0.8	5.4	14.0

※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

- 家族構成別にみると、ひとり暮らし世帯で「特にいない」が、その他の家族構成に比べてやや多くなっています。
- 地区別にみると、大庄地区で「近所や地域の知り合いの人」や「福祉協会（自治会・町会）」が、その他の地区に比べてやや多くなっています。また、園田地区では「特にいない」が、その他の地区に比べてやや多くなっています。
- 現在の住居での居住年数別にみると、1年以上5年未満で「特にいない」が、その他に比べてやや多くなっています。一方で、30年以上では「近所や地域の知り合いの人」が、その他に比べてやや多くなっています。

(%)

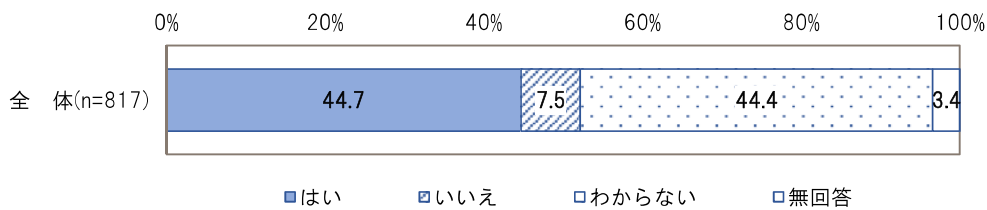
	回答者数 (人)	家族や親族	近所や地域の知り合いの人	消防	福祉協会 (自治会・町会)	警察	利用している福祉サービスの事業者	民生児童委員	その他	特にいない	無回答
家族構成別											
ひとり暮らし	210	50.5	8.1	3.8	1.9	1.0	1.9	0.5	1.9	10.0	20.5
夫婦のみ	223	73.5	2.2	0.9	0.4	1.3	0.4	0.4	0.9	2.2	17.5
親子	277	71.1	3.2	0.7	1.8	1.4	0.4	-	0.4	0.7	20.2
三世帯	30	83.3	-	-	-	-	-	-	-	-	16.7
ひとり親と子	50	68.0	8.0	8.0	-	2.0	-	-	2.0	2.0	10.0
地区別											
中央地区	100	66.0	4.0	1.0	2.0	-	1.0	-	1.0	5.0	20.0
小田地区	121	66.9	5.0	1.7	-	0.8	1.7	-	-	2.5	21.5
大庄地区	68	57.4	7.4	2.9	5.9	2.9	-	-	-	4.4	19.1
立花地区	165	61.2	5.5	3.6	1.2	0.6	1.2	-	1.2	1.2	24.2
武庫地区	172	72.7	4.7	2.9	-	1.2	0.6	-	1.2	2.9	14.0
園田地区	165	69.7	1.8	-	1.2	2.4	-	0.6	1.2	7.3	15.8
現在の住居での居住年数別											
1年未満	44	79.5	2.3	4.5	2.3	-	-	-	-	-	11.4
1年以上 5年未満	146	70.5	0.7	2.1	-	0.7	-	-	1.4	6.8	17.8
5年以上 10年未満	110	69.1	-	3.6	0.0	1.8	0.9	0.9	0.9	2.7	20.0
10年以上 30年未満	281	66.5	5.7	1.4	1.4	1.1	-	-	1.1	3.2	19.6
30年以上	232	59.9	7.8	1.3	3.0	1.7	2.2	0.4	0.9	3.0	19.8

※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(6) 災害時の安否確認等の声かけや避難所での手伝いなどの活動意向

- ・災害時の安否確認等の声かけや避難所での手伝いなどの活動意向では、「はい（活動しようと思う）」が44.7%と4割以上を占めて多く、「いいえ（活動しようとは思わない）」（7.5%）を大きく上回っています。
- ・年代別にみると、活動意向のある人は20～29歳で7割を超えており、その他の年代に比べて多くなっています。
- ・家族構成別にみると、活動意向のある人はひとり親と子世帯で半数を超えており、その他に比べて多くなっています。
- ・居住年数別にみると、概ね、居住年数が短いほど活動意向のある人の割合が多くなる傾向がみられます。



	回答者数 (人)	はい	いいえ	わからない	無回答
(%)					
年代別					
20～29歳	46	71.7	13.0	15.2	-
30～39歳	91	49.5	8.8	41.8	-
40～49歳	125	44.8	1.6	52.8	0.8
50～59歳	123	45.5	4.1	47.2	3.3
60～69歳	131	53.4	3.1	43.5	-
70～79歳	169	42.0	5.9	48.5	3.6
80歳以上	129	25.6	20.2	41.1	13.2
家族構成別					
ひとり暮らし	210	40.0	9.0	45.7	5.2
夫婦のみ	223	44.8	9.4	43.5	2.2
親子	277	47.3	5.4	45.5	1.8
三世帯	30	33.3	10.0	46.7	10.0
ひとり親と子	50	52.0	4.0	40.0	4.0
現在の住居での居住年数別					
1年未満	44	50.0	2.3	47.7	0.0
1年以上5年未満	146	50.0	9.6	38.4	2.1
5年以上10年未満	110	44.5	10.0	43.6	1.8
10年以上30年未満	281	42.3	5.0	49.8	2.8
30年以上	232	43.1	9.1	41.4	6.5

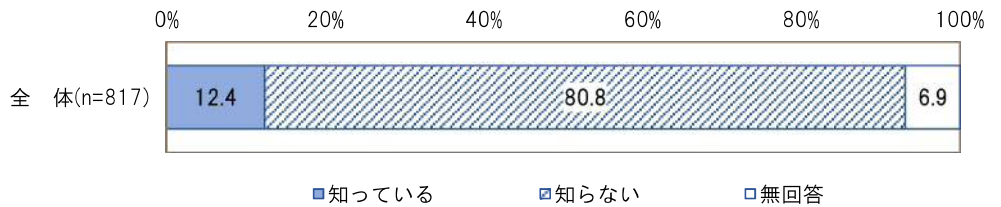
※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(7) 国や県が進めている災害時対策の認知度

① 災害時の要配慮者の名簿を作成して、地域の支援関係者へ提供を行っていること

- ・災害時の要配慮者の名簿を作成して、地域の支援関係者へ提供を行っていることについては、「知っている」が12.4%、「知らない」が80.8%となっており、認知度は1割程度となっています。
- ・性別にみると、男性で「知っている」が女性に比べてやや多くなっています。
- ・年代別にみると、「知っている」の割合では70～79歳で17.8%と2割近くを占め、その他の年代に比べてやや多くなっています。
- ・家族構成別にみると、夫婦のみ世帯で「知っている」がその他の世帯に比べてやや多くなっています。
- ・地区別にみると、大庄地区では「知っている」が2割以上となっており、その他の地区に比べて多くなっています。

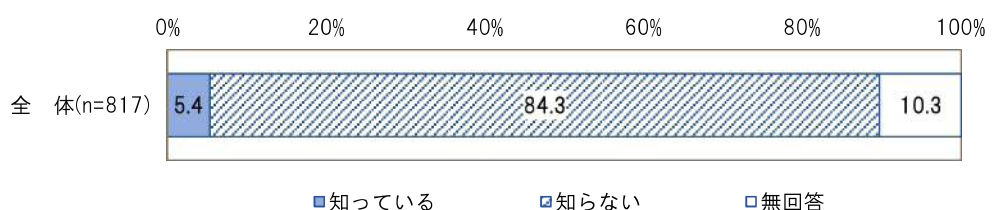


	回答者数 (人)	知っている (%)	知らない (%)	無回答 (%)
性別				
男性	360	14.4	79.2	6.4
女性	454	10.8	81.9	7.3
年代別				
20～29歳	46	10.9	87.0	2.2
30～39歳	91	12.1	87.9	-
40～49歳	125	8.0	88.0	4.0
50～59歳	123	12.2	82.1	5.7
60～69歳	131	13.0	84.7	2.3
70～79歳	169	17.8	72.8	9.5
80歳以上	129	10.1	71.3	18.6
家族構成別				
ひとり暮らし	210	11.9	77.6	10.5
夫婦のみ	223	15.2	79.4	5.4
親子	277	10.8	84.5	4.7
三世帯	30	10.0	80.0	10.0
ひとり親と子	50	12.0	82.0	6.0
地区別				
中央地区	100	10.0	81.0	9.0
小田地区	121	9.1	81.8	9.1
大庄地区	68	22.1	72.1	5.9
立花地区	165	16.4	76.4	7.3
武庫地区	172	9.3	85.5	5.2
園田地区	165	11.5	83.0	5.5

※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。
 ※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」としている。

②要配慮者一人ひとりの避難方法を事前に決めておく個別支援計画の作成を支援していること

- 要配慮者一人ひとりの避難方法を事前に決めておく個別支援計画の作成を支援していることについては、「知っている」が5.4%、「知らない」が84.3%となっており、認知度は1割未満となっています。
- 性別にみると、男性で「知っている」が女性に比べてやや多くなっています。
- 年代別、家族構成別では、大きな差はみられません。
- 地区別にみると、立花地区では「知っている」がやや多くなっているものの、大きな差はみられません。



	回答者数 (人)	知っている (%)	知らない (%)	無回答 (%)
性別				
男性	360	7.8	81.7	10.6
女性	454	3.5	86.3	10.1
年代別				
20～29歳	46	6.5	91.3	2.2
30～39歳	91	4.4	95.6	-
40～49歳	125	6.4	88.8	4.8
50～59歳	123	6.5	87.0	6.5
60～69歳	131	4.6	90.8	4.6
70～79歳	169	5.9	76.3	17.8
80歳以上	129	3.9	70.5	25.6
家族構成別				
ひとり暮らし	210	6.5	91.3	2.2
夫婦のみ	223	4.4	95.6	-
親子	277	6.4	88.8	4.8
三世代	30	6.5	87.0	6.5
ひとり親と子	50	4.6	90.8	4.6
地区別				
中央地区	100	5.0	82.0	13.0
小田地区	121	3.3	84.3	12.4
大庄地区	68	4.4	80.9	14.7
立花地区	165	7.9	83.0	9.1
武庫地区	172	5.2	86.0	8.7
園田地区	165	4.8	86.7	8.5

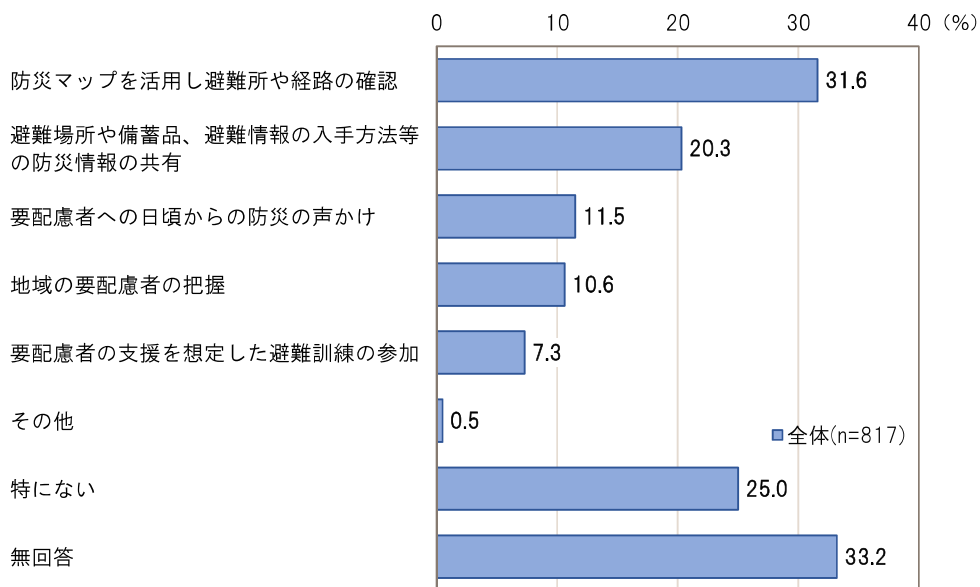
※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」としている。

(8) 地域の高齢者等の要配慮者への避難支援

①日頃から取り組んでいること

- ・地域の高齢者等の要配慮者への避難支援として日頃から取り組んでいることでは、「防災マップを活用し避難所や経路の確認」が31.6%と3割以上を占めて最も多く、次いで「避難場所や備蓄品、避難情報の入手方法等の防災情報の共有」(20.3%)となっています。
- ・また、「特にない」が25.0%となっており、約4人に1人となっています。
- ・性別にみると、男性では「特にない」が女性に比べて多く、女性で日頃から取り組んでいることが多いことがわかります。
- ・年代別にみると、20～29歳、40～59歳で「特にない」が最も多くなっており、特に20～29歳では6割近くを占めています。



	回答者数 (人)	防災マップを活用し避難所や経路の確認	避難場所や備蓄品、避難情報の入手方法等の防災情報の共有	要配慮者への日頃からの防災の声かけ	地域の高齢者等の把握	要配慮者の支援を想定した避難訓練の参加	その他	特にない	無回答
性別									
男性	360	28.9	16.4	8.9	8.6	6.1	-	30.8	31.7
女性	454	33.9	23.6	13.4	12.3	8.4	0.9	20.0	34.6
年代別									
20～29歳	46	13.0	13.0	4.3	2.2	4.3	-	58.7	21.7
30～39歳	91	38.5	28.6	8.8	8.8	7.7	-	28.6	24.2
40～49歳	125	30.4	25.6	12.0	13.6	8.0	1.6	33.6	23.2
50～59歳	123	28.5	17.9	11.4	8.9	6.5	0.8	32.5	30.1
60～69歳	131	39.7	24.4	12.2	14.5	7.6	-	17.6	32.1
70～79歳	169	32.0	17.2	12.4	9.5	6.5	-	15.4	41.4
80歳以上	129	27.9	14.7	14.0	10.9	9.3	0.8	14.7	47.3

※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

- ・家族構成別にみると、ひとり暮らし世帯やひとり親と子世帯では「特にない」がやや多くなっています。
- ・地区別にみると、中央地区では「特にない」が最も多くなっています。
- ・現在の住居での居住年数別にみると、概ね、居住年数が短い人ほど「特にない」が多い傾向がみられます。
- ・地域との交流状況別にみると、交流がある人ほど日頃から取り組んでいる人が多く、「特にない」は2割未満となっています。

(%)

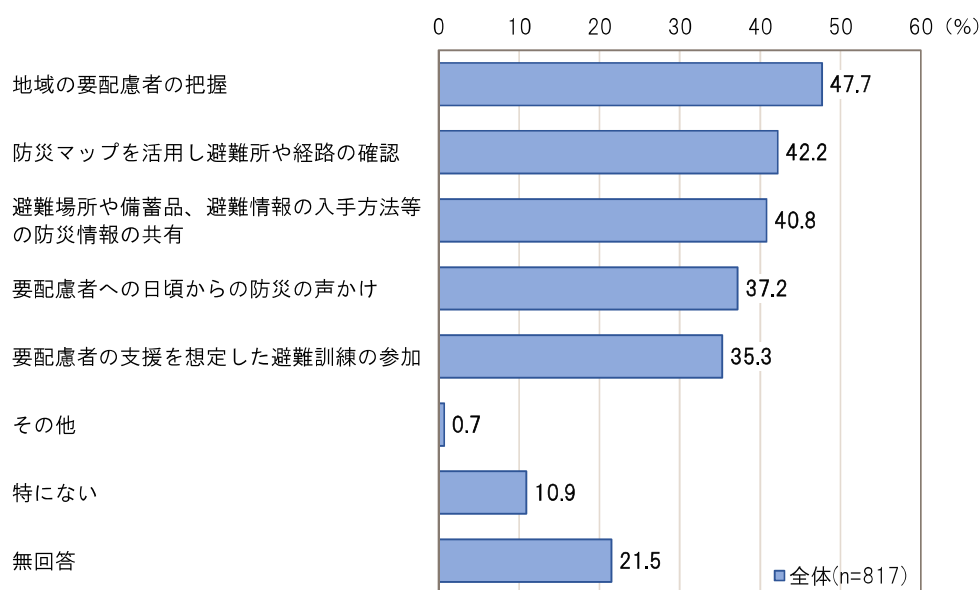
	回答者数(人)	防災マップを活用し避難所や経路の確認	避難場所や備蓄品、避難情報の入手方法等の防	要配慮者への日頃からの防災の声かけ	地域の要配慮者の把握	要配慮者の支援を想定した避難訓練の参加	その他	特にない	無回答
家族構成別									
ひとり暮らし	210	24.8	17.6	12.9	9.5	8.1	1.0	30.0	33.3
夫婦のみ	223	35.9	18.8	11.7	10.8	6.7	0.4	21.5	33.2
親子	277	35.0	22.4	10.1	10.8	6.5	-	23.8	32.9
三世代	30	23.3	16.7	6.7	6.7	6.7	-	20.0	40.0
ひとり親と子	50	28.0	26.0	16.0	18.0	8.0	2.0	28.0	28.0
地区別									
中央地区	100	25.0	16.0	13.0	13.0	8.0	1.0	28.0	39.0
小田地区	121	33.9	22.3	14.0	13.2	9.1	-	16.5	38.8
大庄地区	68	32.4	20.6	13.2	11.8	11.8	-	22.1	30.9
立花地区	165	33.3	21.8	7.9	8.5	6.7	-	27.3	29.7
武庫地区	172	34.9	18.0	11.6	9.9	5.2	-	22.7	33.7
園田地区	165	30.9	21.2	12.1	10.3	6.1	1.8	27.9	30.3
現在の住居での居住年数別									
1年未満	44	27.3	15.9	13.6	6.8	9.1	-	36.4	22.7
1年以上5年未満	146	30.1	23.3	9.6	9.6	11.0	0.7	34.9	26.0
5年以上10年未満	110	33.6	23.6	12.7	6.4	4.5	0.9	29.1	29.1
10年以上30年未満	281	32.4	21.4	10.7	12.1	7.5	0.4	22.8	32.7
30年以上	232	31.9	16.4	12.1	12.1	6.0	-	16.8	42.7
地域との交流状況別									
ある	348	35.9	23.3	14.9	15.2	10.6	0.3	16.1	35.3
あいさつ程度	255	35.7	21.6	8.2	7.5	5.5	-	24.7	32.5
ない	178	19.7	13.5	8.4	6.7	2.8	-	44.4	26.4

※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

②地域で取り組むことが必要だと思うこと

- 地域の高齢者等の要配慮者への避難支援として地域で取り組むことが必要だと思うことでは、「地域の要配慮者の把握」が47.7%と半数近くを占めて最も多く、次いで「防災マップを活用し避難所や経路の確認」(42.2%)、「避難場所や備蓄品、避難情報の入手方法等の防災情報の共有」(40.8%)の順となっています。
- 性別にみると、女性に比べて男性で「特にない」がやや多くなっています。
- 年代別にみると、20～29歳では「防災マップを活用し避難所や経路の確認」、30歳以上では「地域の要配慮者の把握」が最も多くなっています。



(%)

	回答者数 (人)	地域の要配慮者の把握	防災マップを活用し避難所や経路の確認	避難場所や備蓄品、避難情報の入手方法等の防災情報の共有	要配慮者への日頃からの防災の声かけ	要配慮者の支援を想定した避難訓練の参加	その他	特にない	無回答
性別									
男性	360	46.4	41.1	40.8	34.7	32.5	0.6	15.6	19.7
女性	454	49.1	43.4	40.7	39.4	37.7	0.9	6.8	23.1
年代別									
20～29歳	46	54.3	56.5	45.7	39.1	47.8	-	19.6	2.2
30～39歳	91	64.8	53.8	49.5	54.9	47.3	-	8.8	7.7
40～49歳	125	50.4	46.4	45.6	39.2	35.2	1.6	12.8	13.6
50～59歳	123	50.4	40.7	47.2	38.2	38.2	1.6	13.8	10.6
60～69歳	131	54.2	48.9	44.3	46.6	42.7	-	6.1	19.1
70～79歳	169	40.8	34.9	36.7	27.2	25.4	0.6	9.5	33.7
80歳以上	129	31.0	29.5	24.0	25.6	25.6	0.8	10.9	42.6

※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

- 家族構成別にみると、ひとり暮らし世帯やひとり親と子世帯では「防災マップを活用し避難所や経路の確認」がその他の世帯に比べてやや多くなっています。
- 地区別にみると、中央地区では「防災マップを活用し避難所や経路の確認」が最も多くなっています。
- 現在の住居での居住年数別にみると、概ね、居住年数が短い人ほど「防災マップを活用し避難所や経路の確認」が多くなる傾向がみられます。
- 地域との交流状況別にみると、交流がない人では地域で取り組むことが必要だと思ふことが「特にない」が約2割となっており、交流がある人に比べて多くなっています。

(%)

	回答者数 (人)	地域の要配慮者の把握	防災マップを活用し避難所や経路の確認	避難場所や備蓄品、避難情報の入手方法等の防災情報の共有	要配慮者への日頃からの防災の声かけ	要配慮者の支援を想定した避難訓練の参加	その他	特にない	無回答
家族構成別									
ひとり暮らし	210	37.1	38.1	37.1	30.0	28.1	1.0	15.2	27.1
夫婦のみ	223	48.0	41.7	40.4	35.9	35.4	1.3	9.9	20.6
親子	277	56.3	44.4	45.5	41.9	40.4	0.4	9.4	16.6
三世帯	30	46.7	43.3	30.0	43.3	36.7	-	3.3	30.0
ひとり親と子	50	48.0	54.0	42.0	48.0	38.0	-	8.0	16.0
地区別									
中央地区	100	41.0	44.0	39.0	38.0	27.0	1.0	15.0	20.0
小田地区	121	52.1	44.6	43.8	43.0	44.6	-	8.3	19.8
大庄地区	68	50.0	41.2	44.1	39.7	33.8	-	8.8	23.5
立花地区	165	46.1	36.4	39.4	38.8	38.2	1.2	10.9	24.8
武庫地区	172	50.0	39.5	40.7	33.1	33.1	-	8.7	23.3
園田地区	165	49.7	46.7	37.6	36.4	36.4	1.8	12.7	17.6
現在の住居での居住年数別									
1年未満	44	61.4	56.8	47.7	45.5	34.1	-	11.4	9.1
1年以上 5年未満	146	43.8	42.5	38.4	32.2	35.6	1.4	17.8	19.2
5年以上 10年未満	110	47.3	41.8	47.3	44.5	39.1	0.9	12.7	16.4
10年以上 30年未満	281	47.7	41.3	41.6	37.0	34.5	1.1	8.5	20.3
30年以上	232	48.3	40.9	37.1	35.8	34.5	0.0	8.2	29.7
地域との交流状況別									
ある	348	52.0	44.3	42.5	43.1	38.5	0.9	7.8	21.6
あいさつ程度	255	50.2	40.8	42.0	37.6	38.4	0.4	8.2	22.4
ない	178	39.3	42.7	40.4	29.8	29.2	-	20.2	16.9

※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

8. その他について

(1) これからの福祉のまちづくりに対する意見・要望

- ・これからの福祉のまちづくりに対する意見・要望では 111 名（13.6%）の意見がありました。以下、主な意見を抜粋しています。（意見数を複数回答可としてカウントしているため、回答者数と意見数の合計は一致しない。）

《福祉施策について：34 件》

・高齢者の多い中、独居老人の日常の把握等が必要だと思う。
・障害認定を受け、就労枠で人生を新たにしたい。学習や就職支援を増やしてほしい。生涯生活保護では未来がない。
・介護関係者の給与が低いと思う。
・高齢者への支援、支援と声高に言わずに若者にも目を向けてもらいたい。
・相談事は福祉以外にもあるが、どこへ相談したら良いのか分からない。市役所等は“たらい回し”にされることが多い。
・公園に運動できるような器具の設置をお願いしたい。
・小中学校では不登校、引きこもりの支援が色々あるが、卒業してからの支援はどうか。ほとんどが家庭で引きこもり、家族・家庭任せで何十年も経っているケースが多くある。ひとり暮らしや引きこもりで接点のない人の対応をどうすればできるのか考えてもらいたい。
・尼崎市に支援学校を作してほしい。難しいのであれば地域の支援級にもっと力を入れてほしい。そうしないと地域の人に理解してもらおうのも難しいと思う。障害の度合いによって地域の学校に入学するのを嫌がられている感じがあった。
・介護の認定が厳しいと思う。
・福祉に関わる大変さを知ってほしい。高齢者、障害を持たれている方の介助、介護を長期されている側にも立ち、支援方法を考えてもらいたい。
・南部、北部保健福祉センターにまとめたのは維持費削減の目的もあるだろうが、例えば乳幼児健診を受ける側にとっては移動が大変ではないか。逆に訪問するくらいであってほしい。前のように何か所かに分立している方が望ましいと思う。他の分野についても相談に行きにくいのではと思う。敷居が高いと感じる。
・ひとり暮らしができるような軽度な認知症高齢者へのフォローを手厚くできる制度。（通院支援、迷惑電話の録音機能付きの電話の配布など）
・福祉に関する情報を市報で詳しくお知らせ願いたい。
・尼崎市は近隣の自治体（例えば豊中市、西宮市、伊丹市など）に比べ子育て、教育、福祉で見劣りするようになって感じる。もっとしっかりやっていただけると有難い。
・教育、防犯、防災の横断的連携が必要だと思う。福祉は単にそれ自体の問題ではなく、社会構成の根本に立ち返る時期にあると考える。
・尼崎のあちこちで大型マンション建設や大規模な一戸建て住宅の建設が進んでいるが、尼崎にこれ以上そんな建物は要らない。大きな土地があるなら、もっと特養や老健などの施設を作るべきだと思う。尼崎では特養は満室で入れない。家族が介護したくてもできない家族もいる。

《地域活動について：17 件》

・人それぞれ参加したい活動は異なると思うので、どんな活動をしているか一面に載せて明確にしてみると嬉しい。
・隣人の顔と名前や子どもの年齢など知れたら良い、情報交換したいと思っていたが、なかなか会えず、たまに会っても挨拶のみ。コロナで難しいとは思いますが、イベント等あれば嬉しい。
・高齢者になると日々の生活に不安がたくさん出てくるので、安心して暮らせるまちづくりを希望する。高齢者同士がコミュニケーションの取れる場所（地域ごとに）を作してほしい。
・身近な人が地域活動、ボランティアをしていなければ、個人主義にますますなっている世代ではこの先他人の事まで考える人は減少するばかりだと思う。地域福祉、助け合いについて小さな子どもの頃から、学校でももっと教えていくべきことではないかと思う。
・福祉活動をしているのを見たこともないし、目立った活動をしてほしい。
・一人暮らしで周りに知り合いがいないと、なかなか地域での活動に参加しづらかったりするので、何か参加しやすくなるようなきっかけなどがあれば良いと思う。
・仕事をしながら協議会長をしているが、常勤者での活動というのはなかなか時間的にも難しく、会議等がある日は平日で仕事を休まなければ出席ができないため苦慮している。
・高齢の方が外へ出るきっかけがないのも外出しない理由だと思う。家にいることで、体力低下につながる。今はコロナで出られないが、何か良いきっかけが作れると良いと思う。

《地域福祉に関する意識について：16件》

・新しく転居した人達が町会等に入会しないので地域でのつながりが構築できない。地域人としての意識が うすい、付き合いをしたがらない。
・これからの高齢化社会に向け助け合える環境ができ、安心して年をとれる社会になるよう、近隣とも関わ れるきっかけもあってほしい。
・これ以上、人が冷たくなならないことを信じる。昔の日本人の優しさ、親切心変わらないことを希望する。
・高齢者の一人暮らしを見守る社会へお願いしたい。

《防災について：14件》

・最近SNSで市の状況（コロナ等）に関心を持って見ているが、災害時の認識を高めるため、市政便りは 少し見にくいので、危機感を感じるにはもう少し阪神大震災などのように、もっと具体的にこうなるとい う表現とかを写真等で表した方が良いのでは。
・台風大雨地震での災害の時近くに川があり、高い建物もなく、避難場所も分かっているが学校は橋を渡ら ないと駄目で低い場所でもあり、水道設備も指定されているがそこに行くにも水が出れば行く途中で水が あれば行けない。もっと避難場所をはっきり指定してほしい。
・独居老人用の分かりやすいハザードマップがほしい。（避難場所、電話、交通手段等々）
・障害者に対しての災害が起きた時のことを詳しく情報ほしい。
・災害時の避難場所のマップを地域・町内の掲示板に貼ってほしい。
・災害時ペットも一緒に避難できる場所を設けてほしい。
・2018年9月の台風通過後の停電時の市の対応は、近隣の市と比べてお粗末であった。二度とそのような こと無いよう願う。災害に強い、安心して暮らせるまちづくりを希望する。

《バリアフリーについて：13件》

・道路整備、車椅子が通るため白いポールが埋められているが、電柱があつて通るのは不可能。もう少し道 路幅を確認して整備してほしい。
・原動機付自転車、普通自動車の歩道、一般道への駐車が多いので撤去を呼びかけてほしい。
・高齢者や障害者の方が暮らしやすい町づくりを徹底してほしい。
・車椅子を利用される方、電動車椅子、ベビーカーを利用される方々のために、歩道の段差をなくすよう に改良してほしい。

《その他：18件》

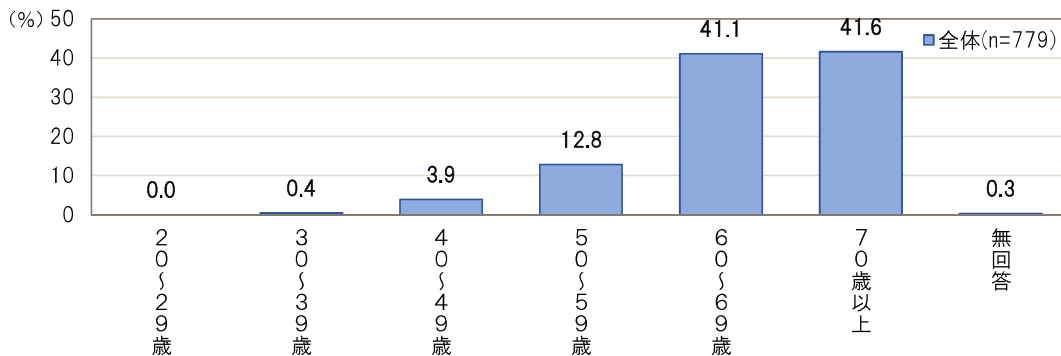
・自然の美しさに触れて色々なハンディのある人が楽しく踏み出せる場所があると良いと感じる。
・「福祉」の概念がはっきりしていないが、高齢化していく自分のことは自分で処理し、対応することがま ず大事なことと思う。
・興味を持って調べないと知らないことがたくさんある。情報が多すぎたり、煩雑だったりするものを意識 的に排除してしまうので、色んなことがシンプルだと良いと思う。

Ⅲ 民生児童委員アンケート調査 調査結果

1. 回答者の属性

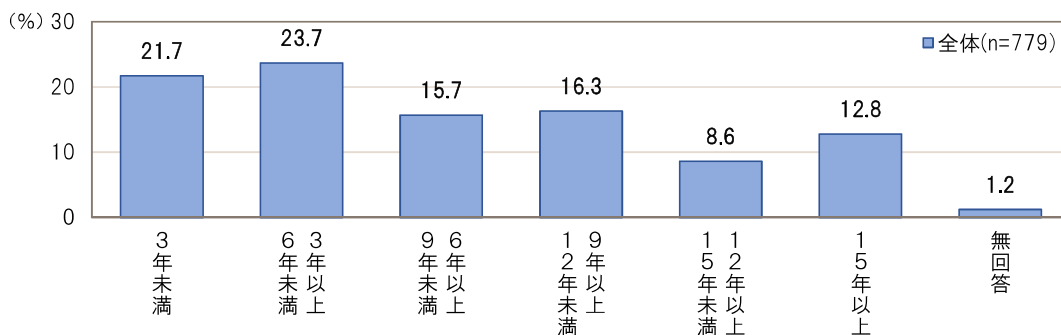
(1) 年齢

- 年齢は、「70歳以上」が41.6%と最も多く、次いで「60～69歳」が41.1%となっており、60歳以上の人が8割以上を占めています。



(2) 民生児童委員としての活動年数

- 活動年数は、「3年以上6年未満」が23.7%と最も多く、次いで「3年未満」が21.7%、「9年以上12年未満」が16.3%、「6年以上9年未満」が15.7%となっています。
- 地区別にみると、武庫地区で「9年以上12年未満」が最も多くなっています。



		(%)						
	(人)	3年未満	3年以上6年未満	6年以上9年未満	9年以上12年未満	12年以上15年未満	15年以上	無回答
年代別								
30～50歳代	133	40.6	25.6	14.3	12.8	4.5	1.5	0.8
60歳代	320	27.8	25.3	13.8	12.5	9.4	10.6	0.6
70歳以上	324	7.7	21.6	18.2	21.6	9.6	19.8	1.5
地区別								
中央地区	120	20.8	27.5	15.0	15.0	9.2	11.7	0.8
小田地区	145	15.2	26.2	13.1	20.7	7.6	16.6	0.7
大庄地区	115	26.1	21.7	15.7	13.0	7.0	15.7	0.9
立花地区	157	22.3	21.0	19.1	14.0	11.5	10.8	1.3
武庫地区	112	19.6	19.6	17.0	20.5	10.7	10.7	1.8
園田地区	125	26.4	26.4	14.4	14.4	5.6	12.0	0.8

※不明があるため、回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。